

貝塚博物館研究資料 第6集

加曾利貝塚人骨の総合調査

2001

千葉市立加曾利貝塚博物館



発掘前の貝塚風景。



貝塚断面。
人物は宮坂光次。

図版説明

いずれも1924年3月24日～4月3日に行われた東京大学人類学教室による加曾利B、E、D地点発掘時のもの。東京大学総合研究博物館人類先史部門蔵、松村瞭アルバムNo. 82より複写。人物は八幡一郎(1924)「千葉県加曾利貝塚の発掘」人類学雑誌 39: 209～212 と山口敏氏のご教示による。



発掘風景。人物は右から山内清男、宮坂光次。



貝層発掘状況。人物は右から甲野 勇、八幡一郎。

目 次

巻頭写真（1924年調査写真）

序	木 村 賛	1・2
加曾利貝塚出土人骨の総合調査		3～11
Report on Human Remains		
from Kasori Shellmound Site, Chiba		12
調査カード凡例		13
調査カード		14～60

例 言

- 1 本書は、加曾利貝塚博物館が1998年度から2000年度にかけて東京大学大学院理学系研究科人類学教室教授木村 賛氏に委託調査した「加曾利貝塚出土人骨の追跡調査研究」事業の報告書である。
- 2 前述の事業は、過去に加曾利貝塚で調査・検出された人骨の全体像をつかむことを目的とした基礎調査である。調査は、木村 賛氏の指導のもと、本文の執筆者である坂上和弘、加藤久雄、中島雅典、松川慎也の諸氏によって実施された。
- 3 本書の著作権は木村 賛氏に帰属する。
- 4 現時点での人骨資料の保管場所は、本文中の表1に明記されている。

序

木 村 賛

(東京大学大学院理学系研究科人類学教室)

加曾利貝塚遺跡は千葉県千葉市若葉区桜木町、北緯35° 37′ 東経140° 10′ に位置する縄文時代中・後期の遺跡である。北および南の二大貝塚とその周辺遺構よりなる。現在は国指定史跡の貝塚公園として保存され、千葉市立加曾利貝塚博物館が管理している。

この貝塚遺跡は大型貝塚であるため日本の人類学・先史学・考古学の発足初期から注目され、何回もの発掘が行われてきた。その結果、縄文式土器編年の確立など多くの成果があげられてきていることは周知のとおりである。また発掘の過程で多数の人骨が出土してきている。最初の人骨出土の報告は、1907年秋に東京大学人類学教室の坪井正五郎、石田收藏、松村瞭が行った調査により発見されたものである(八幡、1924)。以降現在に至るまで60個体以上の人骨の発見が報告されてきた(本文表1)。しかし、それらの人骨の鑑定・報告を行った者の所属は多数の研究機関にまたがるため、全体像が必ずしも明確でなかった。また、報告された人骨の所在がどこに所蔵されているのか、個別の人骨がどのようなものであるか、などの記載は必ずしも全部はなされてきていない。

このたび加曾利貝塚博物館は同貝塚出土人骨の追跡調査を行うことによる総合的基礎資料作成を企画し、著者がこの実行の委託を受けた。我々は調査班を組織し1998年度より3年間の調

査期間の間に、現時点で所在の明らかなすべての骨格を実見し、鑑定を行い、記録にとどめた。記録は現状でもっとも利用可能な方式として、カードに1個体毎に記載するものとした。3年間の各調査年度ごとの報告書は加曾利貝塚博物館に提出してあるが、今回これを一括統一し、総合的資料として提示出版するものである。

追跡調査の詳細は本文に述べるが、報告されたすべての人骨が実見され、ここに記録されているわけではない。発掘報告にあるもののなかで、発掘調査時に人体部位の一部が発見されたにすぎないため取り上げずに埋め戻された人骨が13個体、発掘はなされたと推定されるが現在の所在不明の人骨が12個体ある。これらの多くは幼小児骨である。所在不明のうち大山史前学研究所が1936年に発掘した2個体は1945年の戦災で消失したものと推察される。この報告書の発刊を機会に、これら所在不明人骨の行方が明らかになることがあれば喜ばしい。一方、発掘時に1個体としてとりあげた人骨のなかには、精査によって多数個体からなることが判明したものもあった。この鑑定には同一部位の重複存在、あるいは同一個体とするにはあまりに大きさと形の異なる部分骨の混在を根拠とした。これらの結果、本報告書では47個体の人骨を記録することとなった。本遺跡のように多数回の発掘による報告が別個に出版されている場合、こ

のような総合調査はぜひとも必要なものである。先駆的企画を行った加曽利貝塚博物館に敬意を表する。

本報告書は、調査の概要、カード作成の基準、ならびに加曽利貝塚出土人骨の全体像を記し、付録として47個体のカードをつける。この報告が今後の人骨調査の基礎資料として役立つことを願うものである。また内容についての疑義、訂正、追加がある場合は著者ないし加曽利貝塚

博物館へご連絡をいただければ幸いである。

最後になったが、本調査に全面的な協力をいただいた新潟大学医学部解剖学第一講座・熊木克治教授、東京大学総合研究博物館人類先史部門・高橋昌子氏、諏訪元博士、千葉市立加曽利貝塚博物館、ならびに発掘・報告に関与した皆様に感謝申し上げます。とくに、25年前に加曽利人骨報告を共著し、ご指導をいただいた鈴木尚先生と馬場悠男博士に感謝の意をささげたい。

加曾利貝塚出土人骨の総合調査報告

坂上和弘、加藤久雄、中島雅典
松川慎也、木村 賛

(東京大学大学院理学系研究科人類学教室)

1 調査の概略

平成10年度から平成12年度までの期間に、千葉市立加曾利貝塚博物館より委託された「加曾利貝塚出土人骨の追跡調査研究」は基礎資料収集を目的としている。予備作業の結果、1962年(昭和37年)より前の発掘調査は、人骨に関して具体的に報告されていない上、保管場所も不明のものがあることが判明した。また、1962年(昭和37年)以後の調査でも、遺跡報告書の個体数と実際に保管されている個体数が異なる場合があり、発掘時の個体と保管されている個体との対応があきらかでない個体もあった。これらの理由のため、一個体ずつ実見しながらカードに情報を記載する必要があった。そこで本調査は次のように行われた。

調査方法として第一に全体像を把握し、それにより資料カードの項目を検討し作成した。発掘人骨の精査は東京大学総合研究博物館人類先史部門所蔵の1962年(昭和37年)以前発掘の人骨、1965年(昭和40年)調査の加曾利北貝塚出土人骨、および1964年(昭和39年)調査の加曾利南貝塚出土人骨、新潟大学医学部解剖学第一講座が所蔵する1962年(昭和37年)調査の加曾利北貝塚出土人骨、千葉市立加曾利貝塚博物館所蔵の上記以外の人骨について行われた。これ以外に加曾利貝塚発掘人骨が所蔵されていない

か調査を行ったが見つめることは出来なかった。その後、全体の総括を行った。また、将来の研究に対する基礎資料の提示が目的であるため、東京大学総合研究博物館及び加曾利貝塚博物館所蔵人骨のクリーニングと復元および整理もこれらと平行して行った。

2 カード作成における鑑定基準

調査の目的からみると、過去の報告書における人骨の記載と現状の保管状況には不備な点が幾つか見られる。まず第一に、記載者が異なる場合は記載に一貫性がない。この一貫性は「性別」や「年齢」などの鑑定方法における一貫性をも意味しているため、非常に重要である。即ち、この一貫性がないということは得られた情報を総括して生かすことが出来ないことを意味している。第二に、発掘時の人骨と現在保存されている人骨との対応が必ずしも明確ではないものがある。第三に、遺跡全体の総括や北貝塚、南貝塚別の総括がなされていない。今回の調査ではこれらの問題点を解消することが可能である。

カードには「通しの整理番号」、「保管場所」、「保管所番号」、「発掘調査年月」、「発掘調査者」、「年代情報」、「文献」、「人骨調査年月」、「人骨調査者」、「年齢」、「性別」、「特記事項」、「保存

状況」といった要素を含めた。作成したカードの中で最も有益な情報は、「保存状況」、「年齢」、「性別」である。そこで、これらの情報が何を根拠にして得られたものかを以下に述べる。

保存状況：人骨部位の同定作業には同定者の経験と技量によるところが圧倒的に大きく、同定者間の意見の相違も珍しいことではない。しかし、現代人骨などの比較資料を用い、なお且つ複数の同定者によってクロスチェックがなされると、その精度は上がる。よってこの調査では基本的に2人の人間が同定を行った。ただし、やむをえない状況から同定者が1人の場合もある。

性別：人類学上、性別推定には様々な手法が取られている。また、発掘人骨の場合、保存状況による制限が生じるため、複数の基準をもって鑑定しなければならない。そこで本調査では鑑定基準の優先順序をつくり、それに基づいて行った。基準は以下の数字の順である。

- 1) 大座骨切痕
- 2) 恥骨枝
- 3) 乳様突起、眉間、前頭結節などの頭蓋骨
- 4) 四肢骨の大きさ(太さも含む)
- 5) 四肢骨関節面の大きさ
- 6) 歯の大きさ

複数の基準で矛盾が生じる場合は優先順位の高いものを用いた。また、年齢の低い個体の場合、2)と3)の間に「耳状面の形状」も含まれた。以上の基準で判断不能であった場合は「不明」とした。同定者が複数で矛盾が見られた場合は議論を行ったが、主な鑑定責任は坂上和弘にある。

年齢：年齢推定にも様々な基準が存在するが、性別判定と異なり同じ部位を用いた方法でも基

準が異なれば結果も異なる。さらに現代人で作られた基準が対象となる古人骨を構成した集団に適用しているかどうか客観性を獲得することは、現状では不可能に近いといえる。そこでどの基準を使うかはあくまで鑑定者の判断によって決定された。性別推定と同じく、基準を複数利用し、複数の同定者間で矛盾する場合は議論したが、最終決定は坂上和弘が行った。基準の優先順序は以下の通り。

・成人期

- 1) 恥骨結合面 (Todd, 1920) : 20代から50代までの間で変化する。
- 2) 鎖骨の胸骨端 (Krogman, 1962) : 20代後半に胸骨端と鎖骨が癒合する。
- 3) 頭蓋骨内板の縫合 (岡田, 1961) : 30代~50代までの間で変化する。
- 4) 歯の咬耗 (Brothwell, 1963) : 40代以上で咬耗が進む。

・若年期

- 1) 四肢骨骨端の癒合状況 (Krogman, 1962) : 14歳から20代後半の間に癒合する。
- 2) 歯の萌出状況 (Ubelaker, 1978) : 1歳から21歳までの間で変化する。

カード記入において、保管場所における番号と発掘報告書における番号とに食い違いが多々生じたが、その際には加曾利貝塚博物館所蔵の発掘時における写真と報告書を重視して可能な限り同定を行った。

上記の基準により調査した結果、47個体のカードが完成した。

表1 報告されている加曽利貝塚出土人骨と本調査との対応

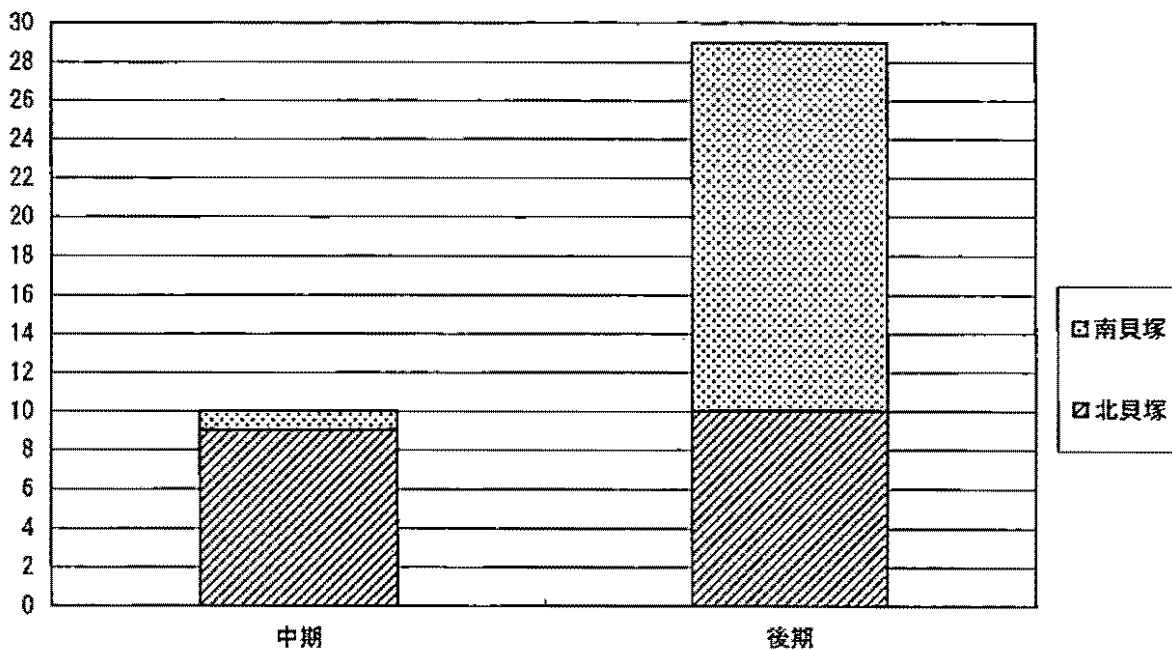
	調査年	発掘調査者	文 献	報告書の個体数	本調査の整理番号	本調査の個体数	保管場所
1)	1907	坪井正五郎 他	八幡, 1924	1	No.1	1	a
2)	1923	上 羽 貞 幸	八幡, 1924	不明	No.2~4	3	a
3)	1924	小金井良精 他	八幡, 1924	3	No.5~7	3	a
4)	1936	大山史前学研究所	大山史前学研究所, 1937	2	欠	0	-
5)	1958	明 治 大 学 考 古 学 研 究 所	芹沢, 1962	1	欠	0	-
6)	1962	武田宗久 他	武田ら, 1968	5	No.17~23	7	b
7)	1964	加曽利貝塚調査団	杉原ら, 1976	31	No.24~43	20	a
8)	1967	加曽利貝塚調査団	杉原ら, 1977	13	No.8~16	9	a
9)	1968	滝口 宏 他	滝口ら, 1977	3	No.44~46	3	c
10)	1972	後藤和民 他	後藤ら, 1981	1	No.47	1	c
計				60以上		47	

注：保管所は「a」東京大学総合研究博物館人類先史部門、「b」新潟大学医学部第一解剖学教室
「c」千葉市立加曽利貝塚博物館。

3 調査報告書との対応

平成12年度までに加曽利貝塚出土と報告されている人骨は表1の通りである。その内、報告書における個体数と実際の個体数が異なるものは、6)の1962年の北貝塚調査、7)の1964年の南貝塚調査、および8)の1967年の北貝塚の調査である。6)における個体数の違いは個体同定方法の違いで生じたものである。即ち、1個体として取り上げられた人骨が今回の調査では複数個体と見なされることがあった。7)における違いは、報告書における4号、8号、11号、15号、20号、21号、22号の7個体（内6個

体小児）の所在が現在では不明であり、12号、14号、23~31号の11個体が埋め戻されていることと、個体同定方法の違いによって生じたものである。8)における違いは、報告書にある3号と5号人骨の埋め戻し、および11号、13号の小児個体の所在が不明であるために生じたものである。なお、4)の1936年の調査および5)の1958年の調査によって発掘された人骨の所在は現在不明である。



* 年代不明の個体は除く。

図1 時期による個体数の差

4 加曾利貝塚出土人骨の構成

この追跡調査によって47個体が識別できたが、そのうち、「No. 4」の個体は縄文時代人ではない可能性が高い。よって以後の考察からはこれを除く。北貝塚と南貝塚との個体数の違いは、北貝塚に所属する個体数は22個体、南貝塚に所属する個体数は23個体である。ただし「No. 3」の個体は所属貝塚が不明であるため除いている。よって所属する個体数は北貝塚と南貝塚とでは差がないと言える。また、中期と後期の個体数の違いは、中期に属する人骨の個体数が10個体、後期に属する人骨の個体数が29個体、残りの7個体が年代不明であり、後期に属する個体数の方が多いという結果になった。中期に属する個体は9個体が北貝塚で発掘された人骨であった(図1)。そのため、中期に属する個体は南貝塚では統計的にも有意に少ないと言える。(カイ

自乗検定 $P < 0.01$) この結果から、時期によって人を埋葬する場所が変化したと考えることもできるが、後期に属する個体は北貝塚にも10個体存在するため、それほど単純ではない可能性が高い。

加曾利貝塚全体での年齢別の個体数は図2に示す。「No. 3」と「No. 18」の2個体は年齢不明であったためこの図から除いている。一見してわかるように、20~50歳の成人が圧倒的に多い。また、15歳以下の若年個体が5個体とかなり少ないが、これは1964年の南貝塚発掘および1967年の北貝塚発掘で報告された小児8個体の所在が不明であるためと考えられる。20~50歳の成人が多く15歳以下の若年個体が少ない傾向は集団を北貝塚出土の人骨と南貝塚出土の人骨に分けて調査しても、時期に分けて調査しても見られた。

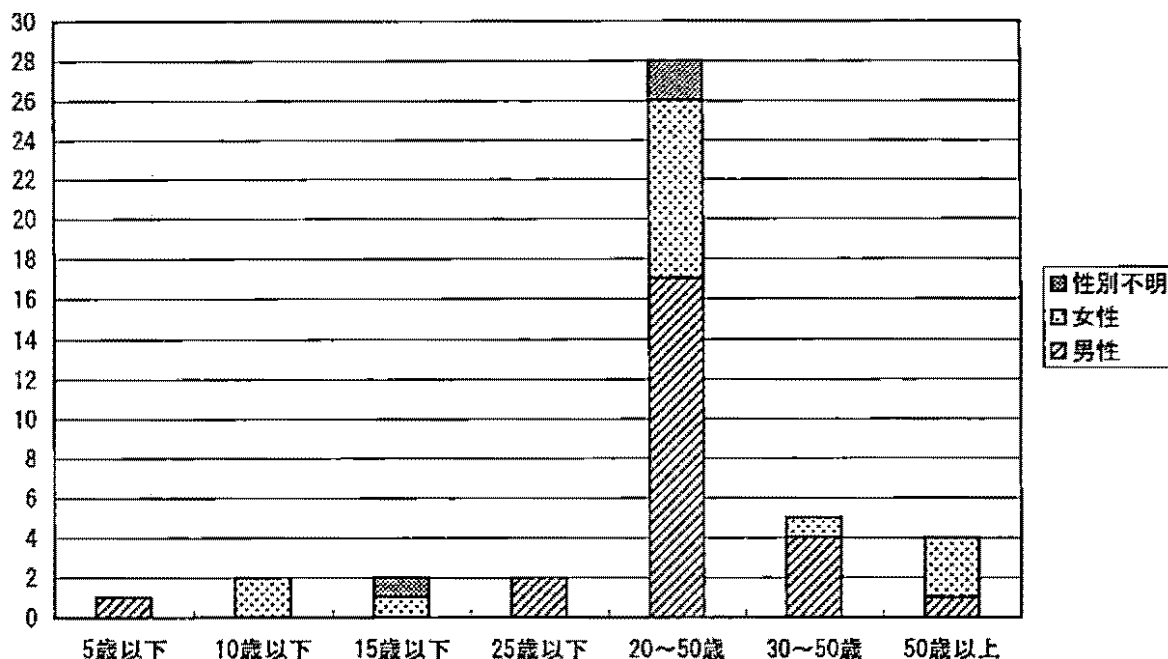
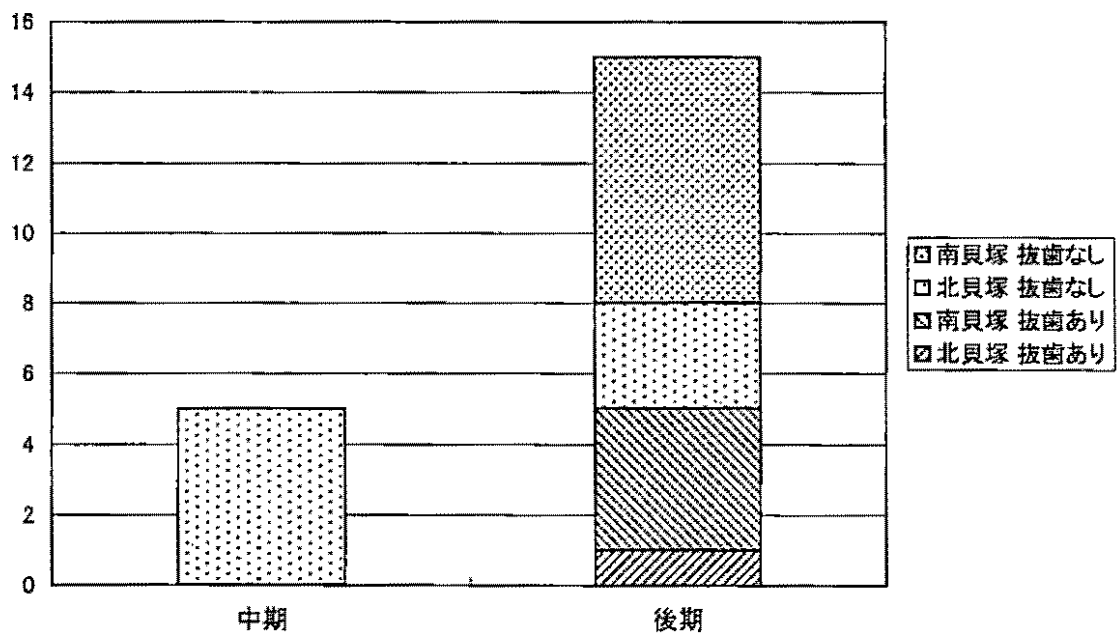


図2 加曾利貝塚年齢別個体数

加曾利貝塚全体の性比を見ると、46個体中、男性が26個体（56.5%）、女性が16個体（34.7%）、性別不明が4個体であり、男性の方が多いという結果となった。貝塚ごとに性比を見ると、北貝塚では全22個体の内、男性12個体に対して女性8個体と男性の方がやや多い。南貝塚では全23個体の内、男性13個体対女性が8個体であった。北貝塚の個体には性鑑定が不可能であった個体が2個体存在するため、これらの性によっては性比が変化する可能性もあるが、南北ともにやや男性の方が多いという傾向は見られ、性比は北貝塚と南貝塚で差はないと考えられる。また、時期ごとに性比を見ると、性および年代が鑑定できている35個体の内、中期に属する男性は6個体に対して女性は4個体、後期に属する男性は14個体、女性は11個体であり、時期による区分でも男性がやや多いという傾向が見ら

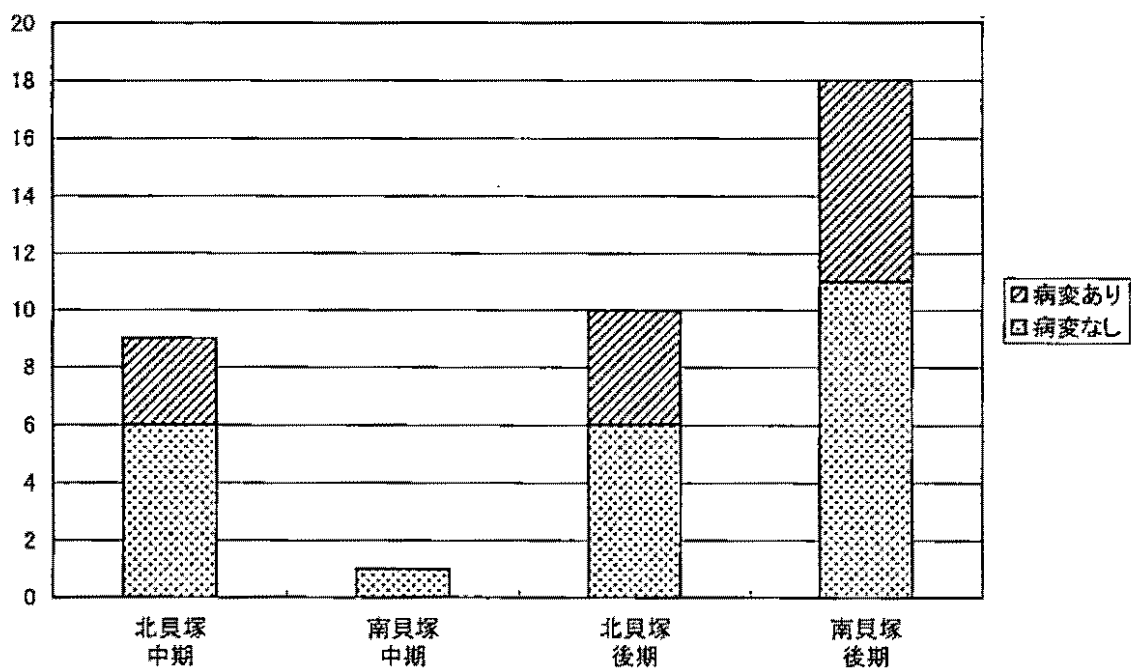
れた。ただし、統計的には有意ではない。

縄文時代人に見られる抜歯は小金井良精（1918）、宮本博人（1925）、山内清男（1937）などの初期研究や春成秀爾（1981）など多くの研究者が研究している課題である。これらの研究によると、抜歯は縄文時代前期に始まり、後期、晩期にかけて全国に広まった。また、抜き方によって2系列計5パターン存在し（春成、1981）、その様式は当時の社会組織を反映しているとも考えられている。しかし、同時代同遺跡の個体群内に抜歯の有る個体と無い個体が含まれており、両者の関係性はいまだ明らかになっていない。本報告ではこの問題に若干触れてみる。まず、切歯から第3小臼歯までが残っている個体（所属貝塚と土器年代が不明な個体は除いた総個体数は20個体）における抜歯*の見られた個体数を時期間で比較してみる（図3）。観察可



* 所属貝塚不明と年代不明の個体は除く。

図3 時期ごとの抜歯の見られた個体数



* 所属貝塚不明と年代不明の個体は除く。

図4 所属貝塚および時代別の病変個体数

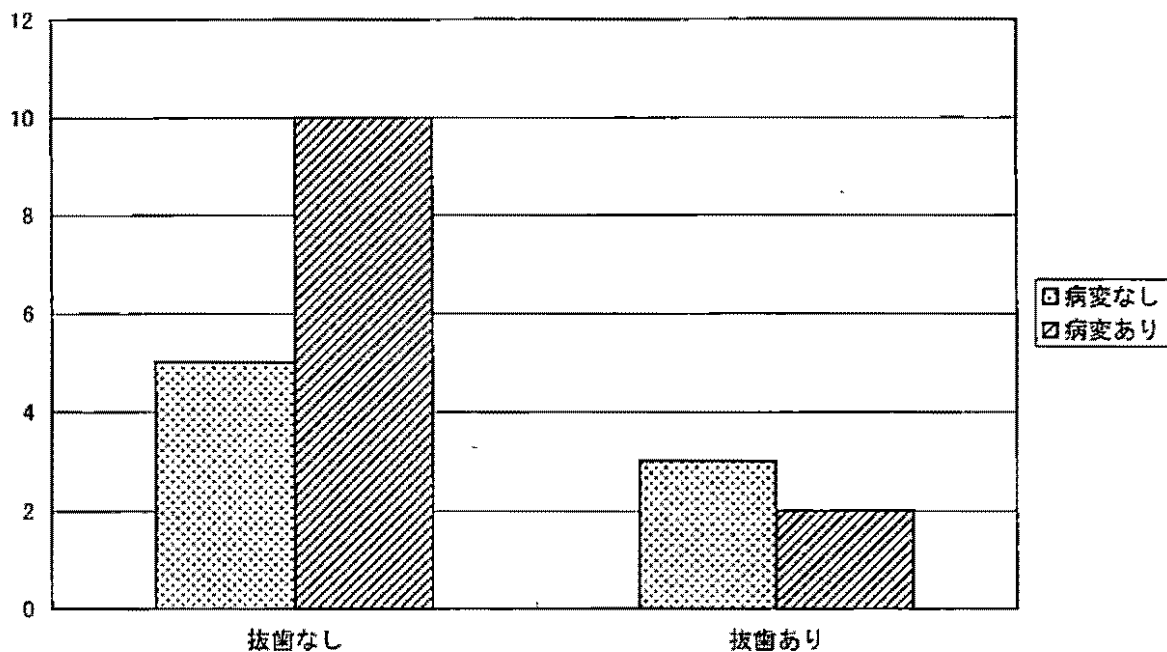


図5 病変と抜歯の関係

能な20個体中抜歯が見られたのは5個体（25.0%）であり、個体数は少ないといえる。南北両貝塚間で比較すると、抜歯が見られた個体数は南貝塚で4個体、北貝塚で1個体であった。また、時期ごとの比較では、中期に属する個体には抜歯が見られなかった。ただし、統計的には有意な差ではない。このことから加曽利貝塚では後期になって抜歯風習が入ってきた可能性も考えられる。樋泉（1999）は、貝層の形成過程、採取スケジュール、捕獲庄の南北両貝塚間の差から、中期集団と後期集団とでは社会規制に差がある可能性を示した。この差が抜歯風習の獲得と何らかの関連性がある可能性も考えられる。

今回の資料では病変と考えられる骨変化が多くの個体で見られた。それを列挙すると以下の通りである。

- 1) 骨折
- 2) 肘関節、膝関節、第一中手骨近位関節に

おける骨関節症

- 3) 顎関節症
- 4) 腰椎における変形性脊椎症（リップング）
- 5) 骨膜炎（骨膜炎様骨増殖も含める）
- 6) 外傷治癒痕

これらの変化が見られたものを単純に「病変」とみなし、個体数を調べた（図4）。所属貝塚および土器年代が不明な個体を除いた総個体数は38個体であった。北貝塚では19個体中7個体（36.8%）に、南貝塚では19個体中7個体（36.8%）に病変が見られた。よって南北両貝塚の間で病変の出現率に大きな差はないと考えられる。また、時期ごとで比較すると、中期では10個体中3個体（30.0%）、後期では28個体中11個体（39.2%）であり、後期の方がやや多い出現率を示した。ただし、この差は統計的に有意ではない。また、男女の間で比較すると、性別不明3個体を除く35個体のうち、男性20個体中10個

体 (50.0%)、女性15個体中4個体 (26.6%) と男性の方が病変の出現率が高い傾向が見られた。ただし、これも統計的には有意差がない。鈴木 (1988) の単一遺跡における総合的な病変の研究によれば、三貫地貝塚では100個体を超す個体のうち50個体、即ち50%近くの個体になんらかの病変が見られた。これと比較すると、加曾利貝塚出土人骨における病変の発生率はやや低いかもしい。また、抜歯が見られた個体数と病変の個体数との関係を見ると (図5)、抜歯の有無が観察可能であった20個体中12個体 (60.0%) に病変が見られた。抜歯が見られた5個体の内病変を持つ個体は2個体 (40.0%) であるが、抜歯がない15個体の内病変を持つ個体は10個体 (66.6%) 存在する。もし、同一の共同体の中で抜歯の有無によって何らかの格差、例えば共同体内における役割、が示されていると仮定するならば、今回の結果から、抜歯がない個体はより病変の起こりやすい環境にあった可能性が考えられる。ただし、今回の調査では個体数が少なく、統計的に有意ではなかった。また、前述のように同時代同遺跡の個体群内での抜歯の有無とその関係性はいまだ明らかになっていないため、この仮定の正当性は不明である。そのため、この可能性も単に推測の域を越えない。この問題に関する今後の研究が待たれる。

*本調査では、推定年齢が20~50代の資料の内、中切歯から犬歯までの間に歯槽閉鎖がみられるものを抜歯がある個体とした。

引用文献

- Brothwell D. R. (1963) Digging Up Bones. Cornell University Press, New York.
- 後藤和民、庄司克 (1981) 昭和47年度加曾利南貝塚南側平坦部第4次遺跡限界確認調査概報。貝塚博物館紀要 7: 1~20
- 春成秀爾 (1981) 縄文時代の複婚制について。考古学雑誌 67: 157~196
- 小金井良精 (1918) 日本石器時代人に上犬歯を抜き去る風習ありきことに就て。人類学雑誌 33: 31~36
- 小金井良精 (1923) 日本石器時代人の埋葬状態。人類学雑誌 38: 25~47
- Krogman W. M. (1962) The Human Skeleton in Forensic Medicine. C. Thomas, Springfield
- 宮本博人 (1925) 津雲貝塚人の抜歯風習に就て。人類学雑誌 40: 167~181
- 岡田幹夫 (1961) 関東地方日本人の頭蓋縫合の年齢変化。慈恵医大誌 77: 112~167
- 大山史前学研究所 (1937) 千葉県千葉郡都村 加曾利貝塚調査報告。史前学雑誌 9: 1~68
- 芹沢長介 (1962) 千葉県千葉市加曾利貝塚。日本考古学年報 11: 73
- 杉原莊介編 (1976) 加曾利南貝塚。中央公論美術出版、東京
- 杉原莊介編 (1977) 加曾利北貝塚。中央公論美術出版、東京
- 鈴木隆雄 (1988) 古病理学的所見。福島県立博物館調査報告第17集「三貫地貝塚」。481~492
- 武田宗久編 (1968) 加曾利貝塚 I。中央公論美術出版、東京
- 滝口宏編 (1977) 加曾利貝塚 IV。中央公論美術出版、東京
- Todd T. W. (1920) Age changes in the pubic bone. I. The male white pubis. Am. J. Phys. Anthropol. 3: 285~334
- 樋泉岳二 (1999) 加曾利貝塚における貝層の研究—貝殻成長線分析による貝層形成過程と貝類採集

活動に関する考察。「貝層の研究 I」。千葉市立加
曾利貝塚博物館

Ubelaker D. (1978) Human Skeletal Remains: Ex-
cavation, Analysis, Interpretation. Aldine,
Chicago.

山内清男 (1937) 日本先史時代に於ける抜歯風習の系
統. 先史考古学 1 : 53~60

八幡一郎 (1924) 千葉県加曾利貝塚の発掘. 人類学雜
誌 39 : 209~212

Report on Human Remains from Kasori Shellmound Site, Chiba

Tasuku KIMURA, Kazuhiro SAKAUE, Hisao KATO,
Masanori NAKAJIMA, and Shinya MATSUKAWA

Division of Anthropology, Graduate School of Science,
The University of Tokyo.
Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0033 JAPAN

Kasori Shellmound Site is situated at 35° 37' N and 140° 10' E in Chiba City, Japan. It consists of two continuous large shellmounds, Northern and Southern, and surrounding archaeological sites. Archaeologically it dates to the Middle to Late Jomon period. The site is conserved now as an archaeological park. The large shellmounds have been excavated many times and are famous for their importance for the chronology of Jomon pottery and other research. The first human remain was excavated in 1907 by the staff of the Department of Anthropology, the University of Tokyo. During a century of excavations since, over 60 individuals were reported to be found (Table 1). Descriptions of human remains, however, were scattered in many reports. Moreover, the storage place and the details of remains were not always clear.

In 1998, the Kasori Shellmound Site Museum, Chiba City, planned to organize a total report on human remains, and we carried

out the research under contract with the Museum. The present report contains the card catalogue of each individual which we could personally observe and identify. The remaining parts of the skeleton and teeth and the present storage were described in the catalogue. Thirteen reported individuals have been buried again. The present location of twelve reported individuals is not known. On some occasions, what was reported as one individual was divided into two or more in the present research. In total, 47 individuals were reported here. We hope that the present catalogue will be in use in the future studies.

We express our sincere respect for the pioneering plan of the Kasori Shellmound Site Museum. For their kind material help, we wish to express our sincere gratitude to : K. Kumaki of the Niigata University; M. Takahashi and G. Suwa of the University of Tokyo; and the staff of the Kasori Shellmound Site Museum.

凡例

加曾利貝塚出土人骨

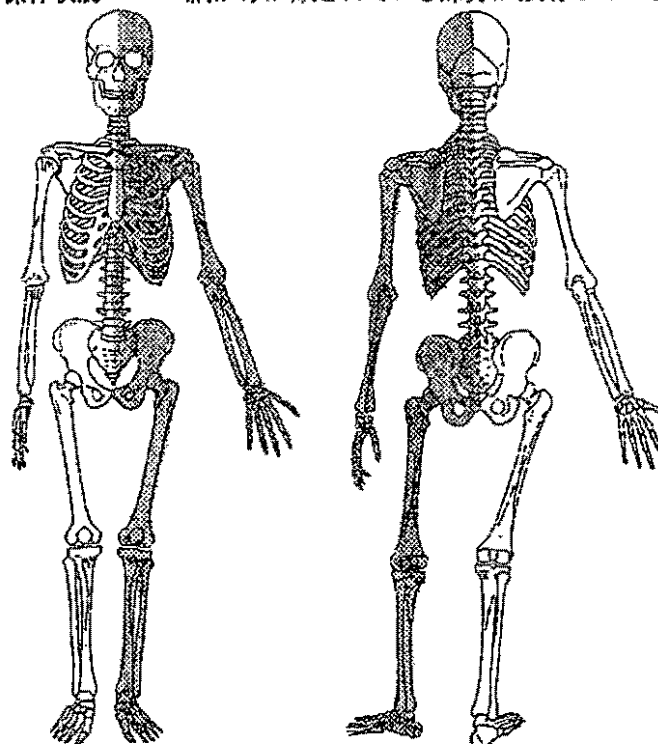
整理番号	本調査における整理番号
保管場所	人骨が現在保管されている機関
保管所番号	人骨が保管されている機関における番号もしくは名称
報告書番号	報告書のなかで与えられた番号
発掘調査年月	人骨が発掘された調査の実施年月
発掘調査地区	加曾利貝塚における発掘調査の地区。報告書の呼称に拠る
発掘調査者	人骨が発掘された調査の実施者
年代情報	その人骨が属する土器形式。報告書に拠る
文献	人骨を報告した文献
人骨調査年月	本調査が行われた年月
人骨調査者	本調査を行った者
年齢	人骨の推定年齢。推定基準は本文参照
性別	人骨の推定性別。推定基準は本文参照
特記事項	調査者がその人骨に関して気がついた事項。保管所番号と報告書番号との矛盾や病変などを記す

No.999

本調査における整理番号を示す

保存状況

網がけが成されている部分が残存している部位を示す



歯式	δ	γ	δ	δ	4	δ	δ	γ		d1	②	δ	X	d5	⑥	γ	X
	δ	γ	δ	δ	4	δ	δ	γ		1	2	3	4	5	6	7	8

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

歯式は向かって右側が人骨の左側の歯を記す

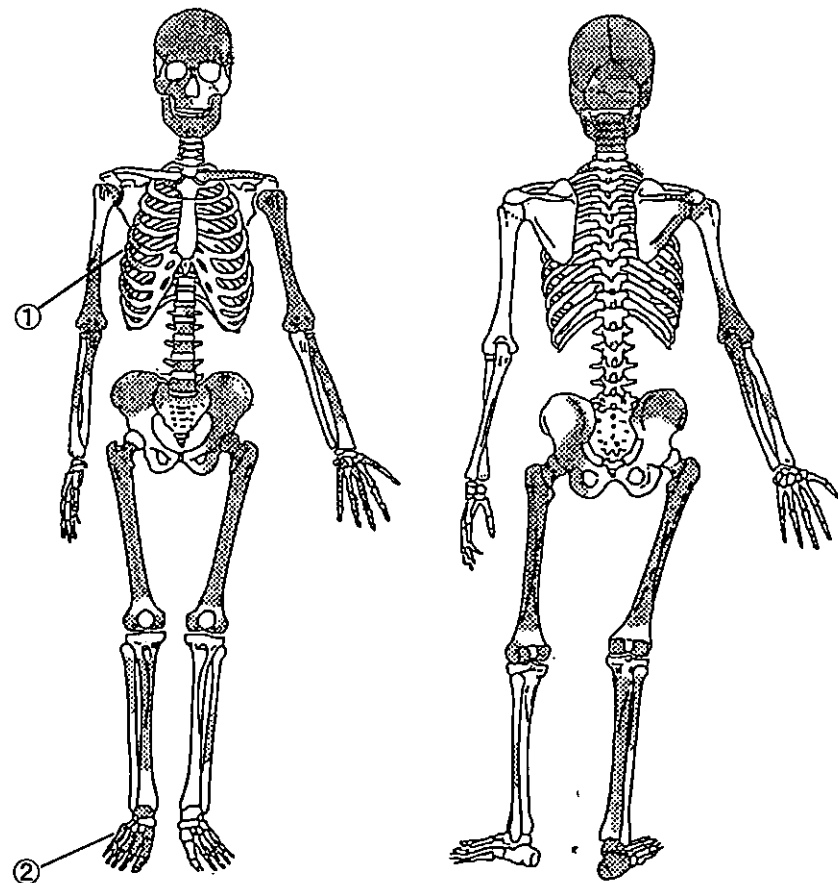
数字に記号が付いていない場合、その歯は残存している

加曾利貝塚出土人骨

整理番号	1
保管場所	東京大学総合研究博物館
保管所番号	UMUT-AP-HB-131045 加曾利('07)
報告書番号	なし
発掘調査年月	1907,秋
発掘調査地区	「下総国千葉郡都村加曾利貝塚」
発掘調査者	坪井正五郎、石田収蔵、松村瞭
年代情報	不明
文献	小金井良精(1923)「日本石器時代人の埋葬状態」人類誌38-1、25 八幡一郎(1924)「千葉縣加曾利貝塚の發掘」人類誌39-4、5、6、209
人骨調査年月	1998,10/22
人骨調査者	坂上・加藤
年齢	20~25
性別	男性
特記事項	①と②に骨折痕あり

No.1

保存状況



歯式	8	7	6	⑤	④	③	②	①		①	2	3	4	5	6	7	8
	8	7	6	5	④	③	②	1		①	②	3	④	⑤	6	7	8

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/ : 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

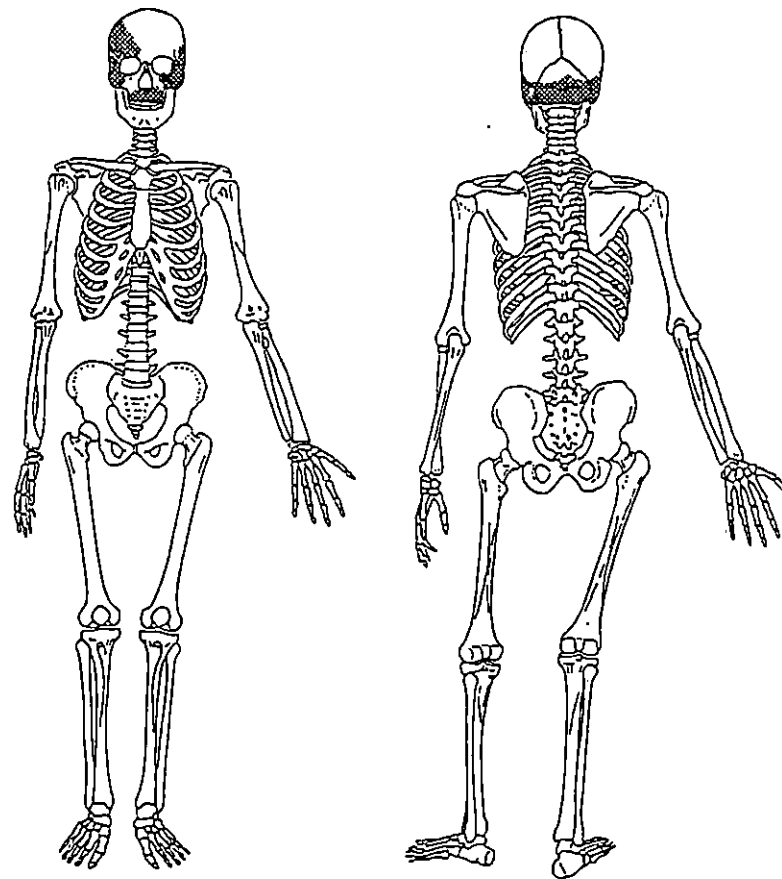
整理番号 2
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131046 加曾利('23)番外a
 報告書番号 なし

発掘調査年月 1923,秋
 発掘調査地区 不明
 発掘調査者 上羽貞幸
 年代情報 不明
 文献 八幡一郎(1924)「千葉縣加曾利貝塚の發掘」人類誌39-4、5、6、209

人骨調査年月 1998,10/23
 人骨調査者 坂上
 年齢 20~50
 性別 男性
 特記事項

No.2

保存状況



歯式 $\begin{array}{cccccccc|cccccccc} \text{♁} & \text{♁} & 6 & \text{⓪} & \text{X} & \text{X} & \text{X} & \text{X} & \text{X} & \text{X} & \text{⓪} & \text{④} & 5 & 6 & \text{♁} & \text{♁} \\ \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} & \text{A} & \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} & \text{♁} \end{array}$

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号 3
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131047 加曾利('23)番外b
 報告書番号 なし

発掘調査年月 1923,秋
 発掘調査地区 不明
 発掘調査者 上羽貞幸
 年代情報 不明
 文献 八幡一郎(1924)「千葉縣加曾利貝塚の發掘」人類誌39-4、5、6、209

人骨調査年月 1998,10/26

人骨調査者 坂上

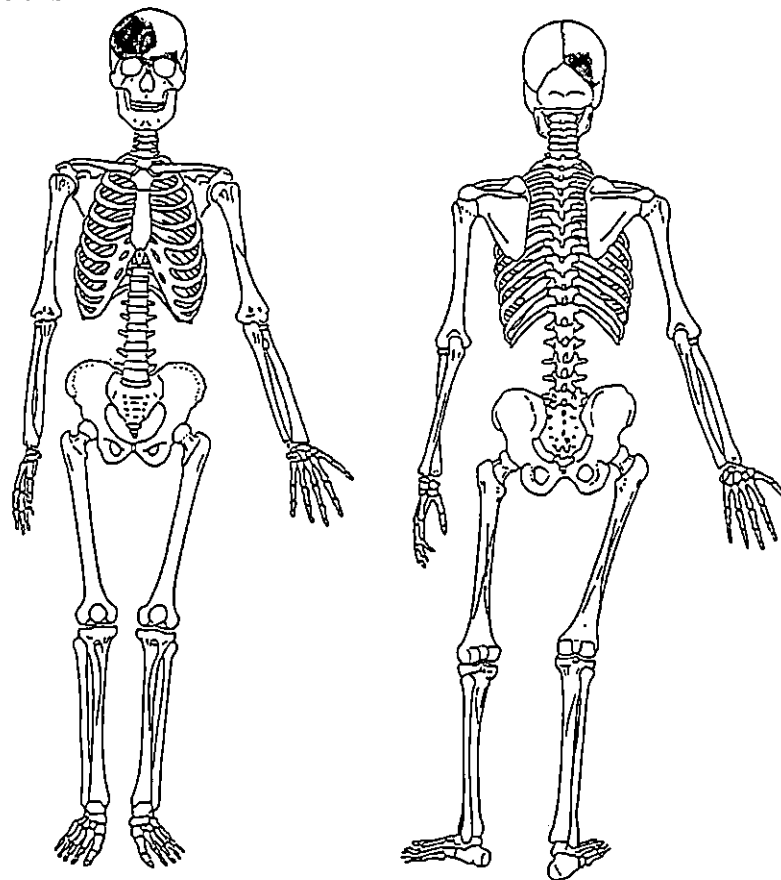
年齢

性別

特記事項

No.3

保存状況



歯式

♁	/	♁	♁	A	♁	2	I	I	2	♁	A	♁	♁	/	♁
♁	/	♁	♁	A	♁	2	I	I	2	♁	A	♁	♁	/	♁

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

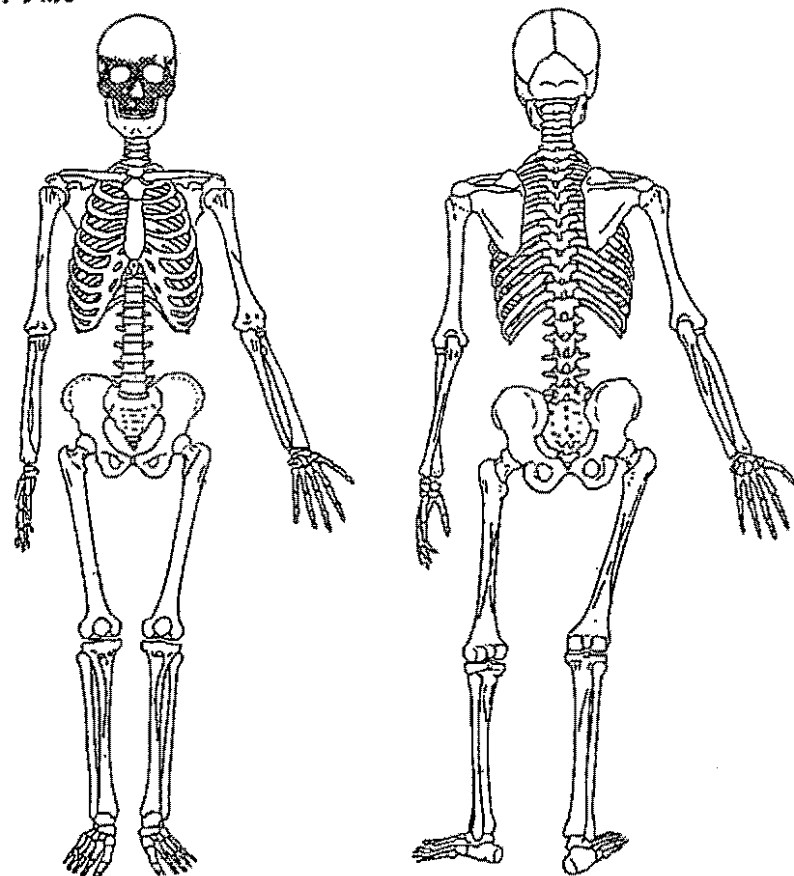
整理番号 4
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131047 加曾利('23)番外b
 報告書番号 なし

発掘調査年月 1923,秋
 発掘調査地区 不明
 発掘調査者 上羽貞幸
 年代情報 不明
 文献 八幡一郎(1924)「千葉縣加曾利貝塚の發掘」人類誌39-4、5、6、209

人骨調査年月 1998,10/29
 人骨調査者 坂上
 年齢 20~50
 性別 女性
 特記事項 顔面形態は縄文的ではない。縄文以外の可能性が考えられる。

No.4

保存状況



歯式 $\overline{\times 7 \times} \underline{5 4 3 2 1} \mid \underline{1 2 3 4} \underline{\times \times} \underline{7 \times}$
 $\overline{\text{d}} \underline{\text{d}} \overline{\text{d}} \underline{\text{d}} \underline{\text{d}} \underline{\text{d}} \underline{\text{d}} \underline{\text{d}} \mid \underline{\text{d}} \underline{\text{d}} \underline{\text{d}} \underline{\text{d}} \underline{\text{d}} \underline{\text{d}} \underline{\text{d}}$

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

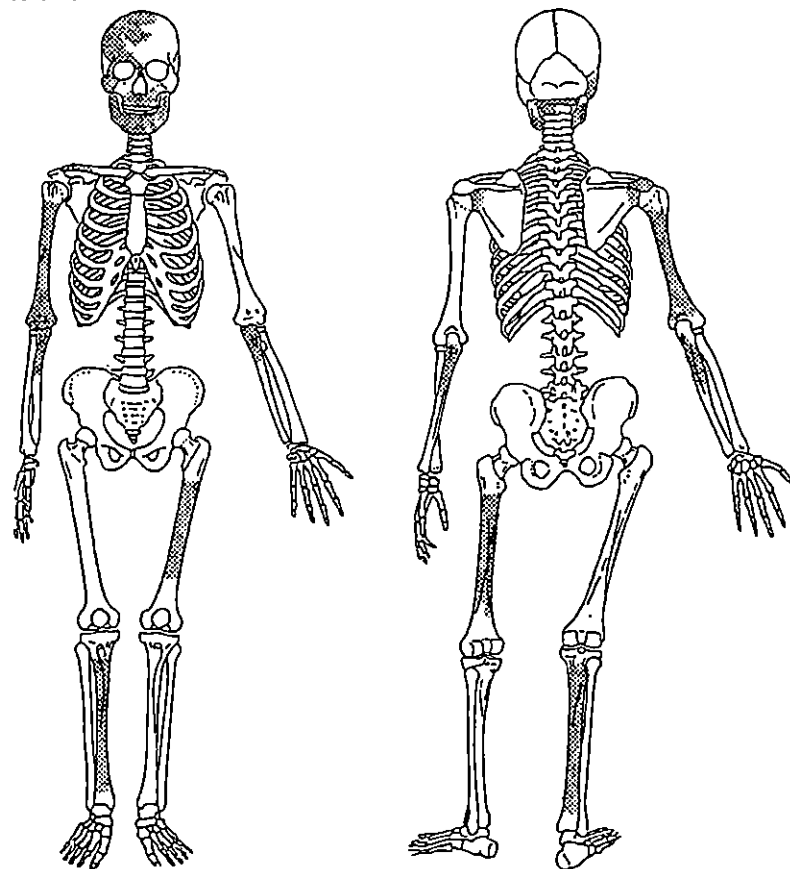
整理番号 5
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131048 加曾利('24)B-II-5
 報告書番号 B地点II-5

発掘調査年月 1924.3
 発掘調査地区 B地点II-5
 発掘調査者 小金井良精、松村瞭、八幡一郎、甲野勇、山内清男、宮坂光次
 年代情報 加曾利B?
 文献 八幡一郎(1924)「千葉縣加曾利貝塚の發掘」人類誌39-4、5、6、209

人骨調査年月 1998.11/12
 人骨調査者 坂上、加藤
 年齢 20~50
 性別 男性
 特記事項

No.5

保存状況



齒式 $\begin{array}{cccccccc|cccccccc} \cancel{8} & / & 6 & 5 & 4 & 3 & \textcircled{2} & 1 & 1 & \textcircled{2} & 3 & \textcircled{4} & \textcircled{5} & 6 & / & \cancel{8} \\ 8 & 7 & 6 & 5 & \textcircled{4} & \textcircled{3} & \textcircled{2} & \textcircled{1} & \textcircled{1} & \textcircled{2} & \textcircled{3} & \textcircled{4} & \cancel{5} & 6 & 7 & 8 \end{array}$

d: 乳齒、○: 齒槽開放、/ : 破損欠損、×: 齒槽閉鎖(抜齒、未萌出、欠如を含む)

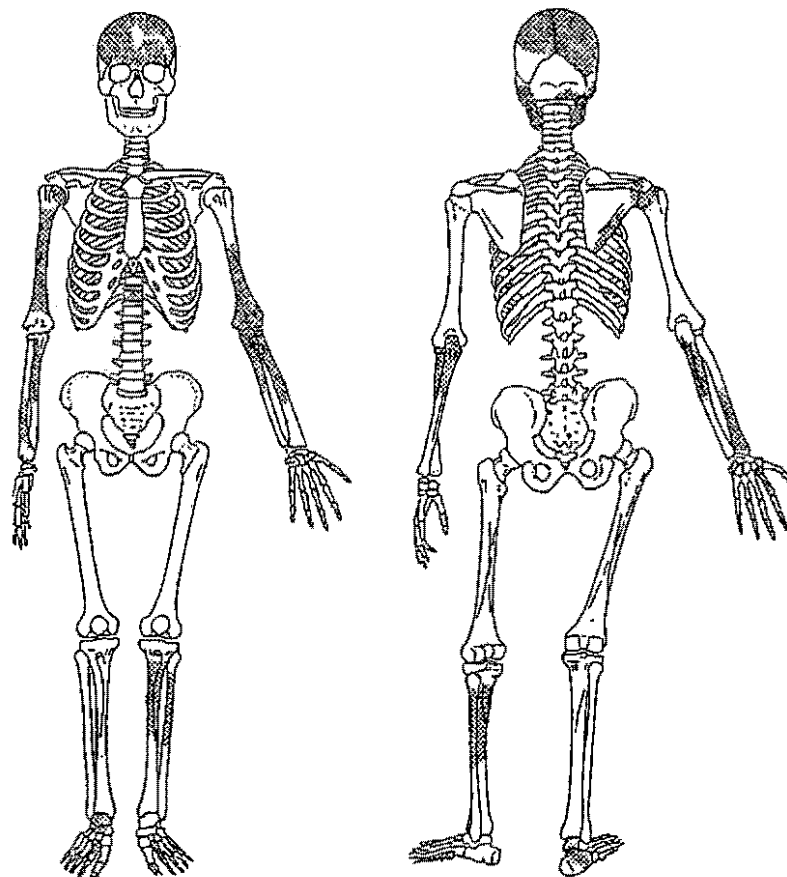
加曾利貝塚出土人骨

整理番号 6
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131049 加曾利('24)D-1
 報告書番号 D地点(1)
 発掘調査年月 1924,3
 発掘調査地区 D地点
 発掘調査者 小金井良精、松村瞭、八幡一郎、甲野勇、山内清男、宮坂光次
 年代情報 不明
 文献 八幡一郎(1924)「千葉縣加曾利貝塚の發掘」人類誌39-4、5、6、209

人骨調査年月 1998,11/12
 人骨調査者 坂上、加藤
 年齢 20~50
 性別 男性
 特記事項

No.6

保存状況



齒式	♂	♂	6	5	4	3	②	1	1	②	3	④	⑤	6	♂	♂
	8	7	6	5	④	③	②	①	①	②	③	④	♂	6	7	8

d: 乳歯、O: 齒槽開放、/: 破損欠損、×: 齒槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

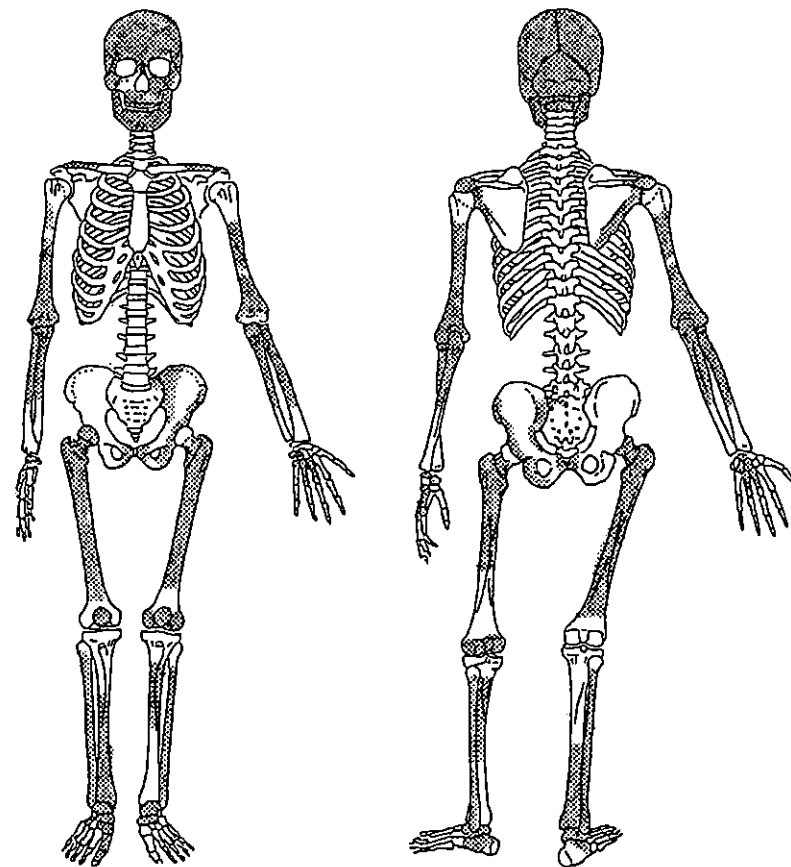
整理番号 7
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131050 加曾利('24)D-2
 報告書番号 D地点人骨第二号

発掘調査年月 1924.4/1
 発掘調査地区 D地点
 発掘調査者 小金井良精、松村瞭、八幡一郎、甲野勇、山内清男、宮坂光次
 年代情報 不明
 文献 八幡一郎(1924)「千葉縣加曾利貝塚の發掘」人類誌39-4、5、6、209

人骨調査年月 1998.11/19
 人骨調査者 坂上
 年齢 20代後半
 性別 男性
 特記事項

No.7

保存状況



齒式	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

d: 乳齒、O: 齒槽開放、/: 破損欠損、×: 齒槽閉鎖(抜齒、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

No.8

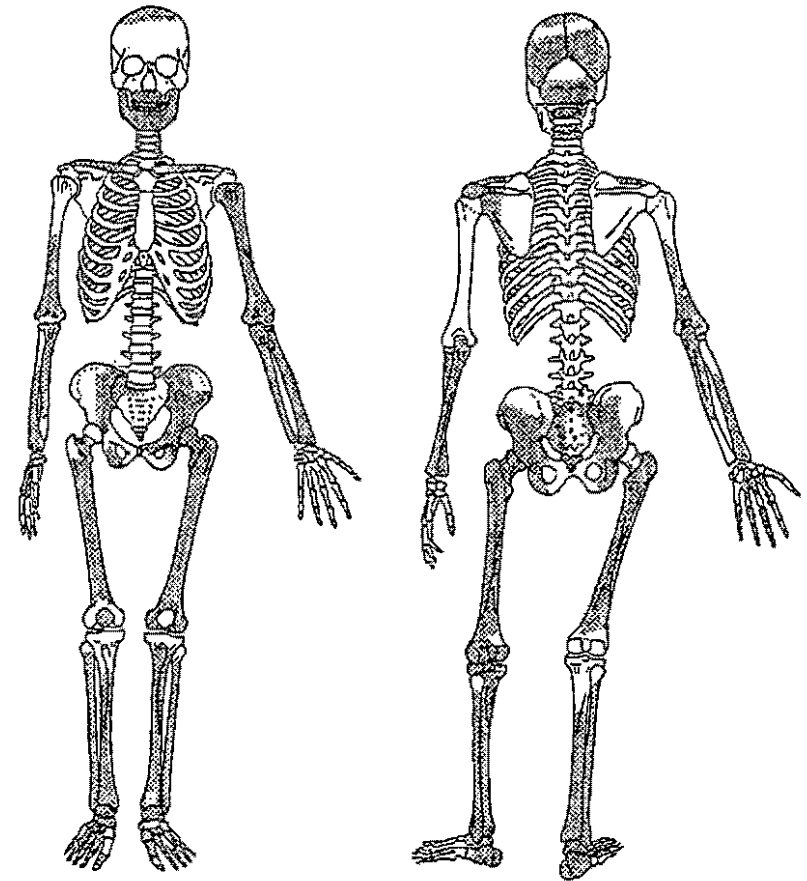
保存状況

整理番号 8
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131051 加曾利北1
 報告書番号 第1号人骨

発掘調査年月 1965,10~11
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第1住居址群調査区
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内I
 文献 杉原荘介 編(1977)「加曾利北貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 1998,11/24
 人骨調査者 坂上
 年齢 20~50
 性別 女性

特記事項 東大の「加曾利北1+1」は最小3個体混入されているが報告書および発掘時写真から本標本が報告書整理時の「第1号人骨」である。



歯式 $\overline{8 \ 7 \ 6 \ 5 \ 4 \ ③ \ ② \ ①} \mid \overline{1 \ ② \ X \ 4 \ 5 \ 6 \ 7 \ 8}$
 $8 \ 7 \ 6 \ X \ 4 \ ③ \ ② \ ① \mid ① \ ② \ ③ \ ④ \ 5 \ 6 \ 7 \ 8$

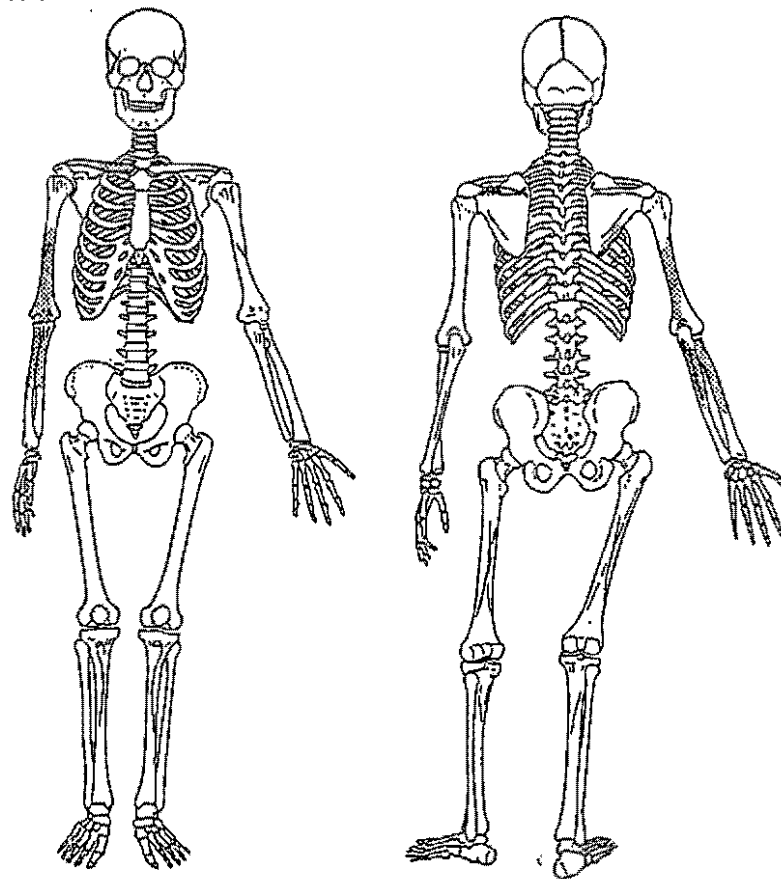
d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、x:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

No.9

保存状況

整理番号	9
保管場所	東京大学総合研究博物館
保管所番号	UMUT-AP-HB-131052 加曾利北1'
報告書番号	第2号人骨
発掘調査年月	1965.10~11
発掘調査地区	加曾利北貝塚第1住居址群調査区
発掘調査者	加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
年代情報	加曾利E
文献	杉原荘介 編(1977)「加曾利北貝塚」中央公論美術出版
人骨調査年月	1998.11/25、26
人骨調査者	坂上
年齢	20~50
性別	男性
特記事項	東大の「加曾利北1+1」は最小3個体混入されているが、発掘報告書および発掘時写真から本標本は報告書整理時の「第2号人骨」である。



歯式

8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8

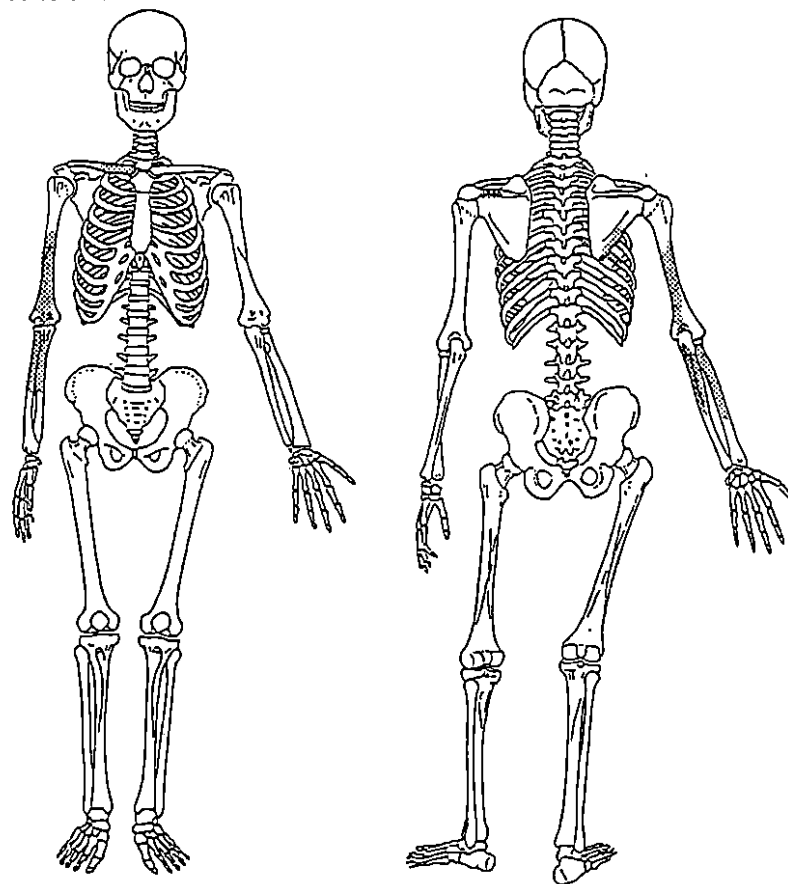
d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

No.10

保存状況

整理番号	10
保管場所	東京大学総合研究博物館
保管所番号	UMUT-AP-HB-131052 加曾利北 1'
報告書番号	第 10号人骨
発掘調査年月	1965,10~11
発掘調査地区	加曾利北貝塚第1住居址群調査区
発掘調査者	加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
年代情報	堀之内 I
文献	杉原荘介 編(1977)「加曾利北貝塚」中央公論美術出版
人骨調査年月	1998,11/25
人骨調査者	坂上
年齢	2~4
性別	男性
特記事項	東大の「加曾利北1+1'」は最小3個体混入されているが、発掘報告書および発掘時写真から本標本は報告書整理時の「第10号人骨」である。



歯式 $\begin{array}{c} \text{8} \text{X} \text{d6} \text{X} \text{A} \text{8} \text{2} \text{1} \text{1} \text{d1} \text{2} \text{d3} \text{A} \text{5} \text{X} \text{1} \text{8} \\ \text{8} \text{1} \text{d6} \text{5} \text{X} \text{X} \text{2} \text{1} \text{1} \text{2} \text{X} \text{X} \text{5} \text{d6} \text{1} \text{8} \end{array}$

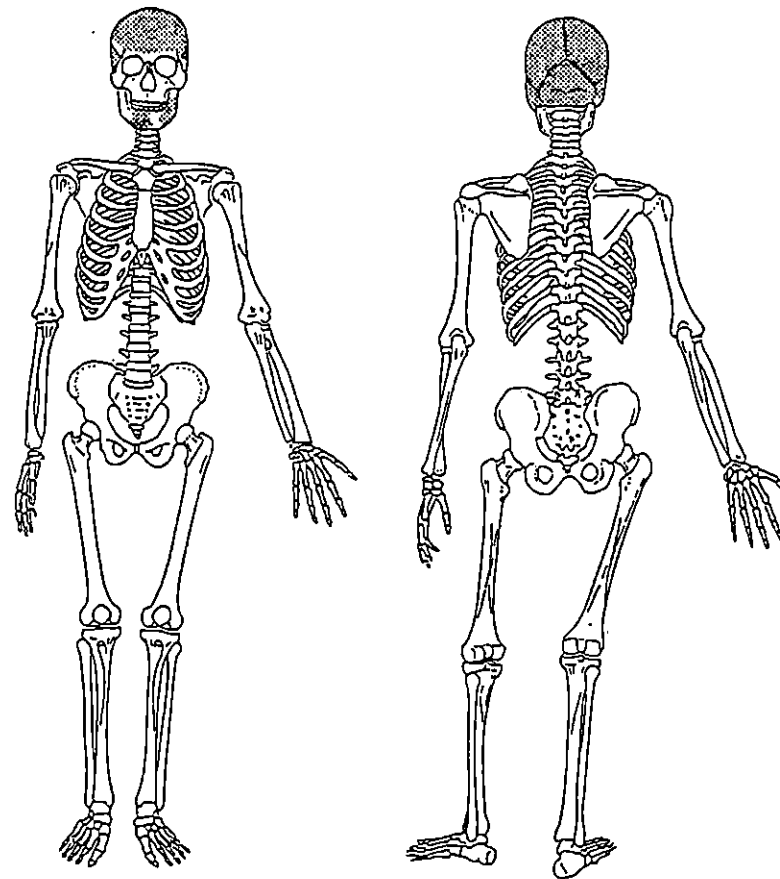
d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号	11
保管場所	東京大学総合研究博物館
保管所番号	UMUT-AP-HB-131053 加曾利北 2
報告書番号	第 12号人骨
発掘調査年月	1965,10~11
発掘調査地区	加曾利北貝塚貝層区Bトレンチ
発掘調査者	加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
年代情報	加曾利EⅡ
文献	杉原荘介 編(1977)「加曾利北貝塚」中央公論美術出版
人骨調査年月	1998,11/26
人骨調査者	坂上
年齢	20~50
性別	女性
特記事項	東大の保管所番号では「加曾利北2」となっているが、これは発掘報告書の発掘時番号「Bトレンチ第2号人骨」、すなわち報告書整理番号の「第12号人骨」である。

No.11

保存状況



歯式 $\frac{\text{8 } \text{I } \text{8 } \text{8 } \text{4 } \text{8 } \text{2 } \text{I}}{\text{8 } \text{X } \text{X } \text{8 } \text{4 } \text{3 } \text{2 } \text{1}} \mid \frac{\text{I } \text{2 } \text{8 } \text{4 } \text{8 } \text{8 } \text{I } \text{8}}{\text{I } \text{2 } \text{8 } \text{4 } \text{8 } \text{8 } \text{I } \text{8}}$

d: 乳歯、○: 歯槽開放、/ : 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号 12
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131054 加曾利北3
 報告書番号 第4号人骨

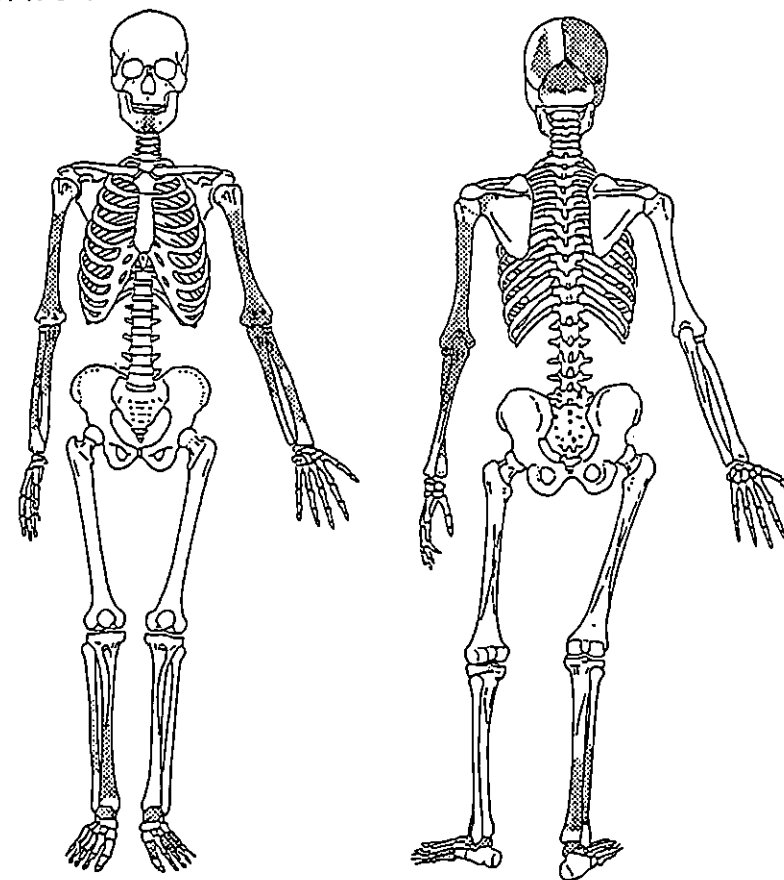
発掘調査年月 1965,10~11
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第1住居址群調査区
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内 I
 文献 杉原荘介 編(1977)「加曾利北貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 1998,11/14、15
 人骨調査者 坂上
 年齢 50以上
 性別 女性

特記事項 東大の保管所番号は「加曾利北3」であるが、発掘報告書および発掘時写真から、本標本は報告書整理時の「第4号人骨」である。

No.12

保存状況



歯式 $\frac{I \ 2 \ 4 \ 2 \ 1 \ 1}{I \ 2 \ 4 \ 2 \ 1 \ 1}$

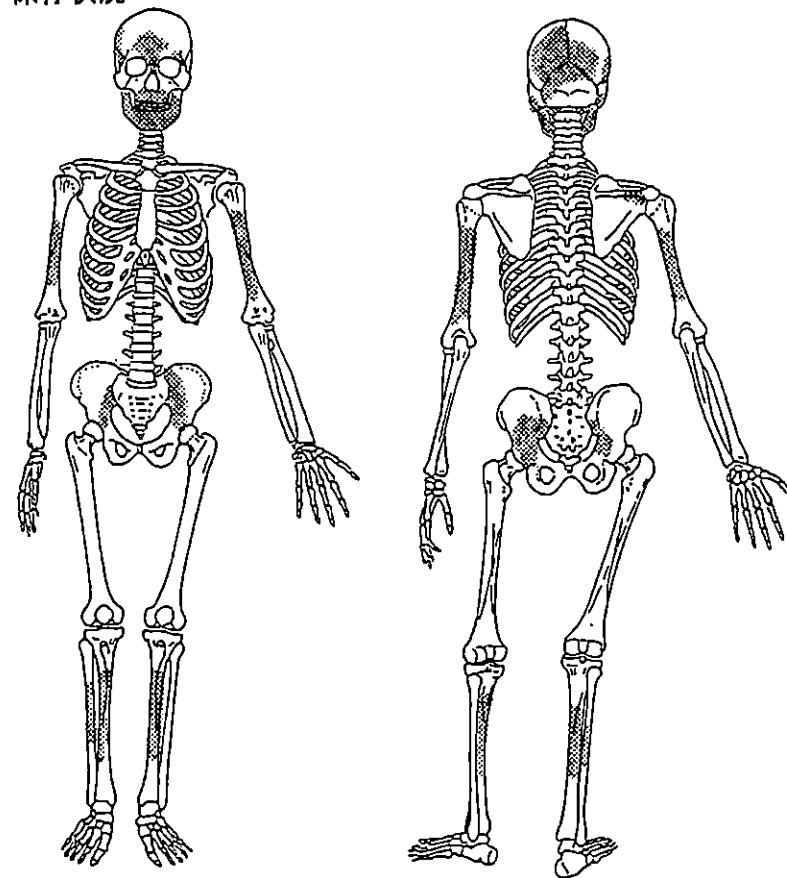
d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号	13
保管場所	東京大学総合研究博物館
保管所番号	UMUT-AP-HB-131055 加曾利北4
報告書番号	第9号人骨
発掘調査年月	1965.10~11
発掘調査地区	加曾利北貝塚第2住居址群調査区
発掘調査者	加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
年代情報	勝坂
文献	杉原荘介 編(1977)「加曾利北貝塚」中央公論美術出版
人骨調査年月	1998.12/15
人骨調査者	坂上
年齢	7~8
性別	女性
特記事項	東大の保管所番号は「加曾利北4」であるが、発掘報告書および発掘時写真から、本標本は報告書整理時の「第9号人骨」である。

No.13

保存状況



歯式 $\begin{array}{cccccccc|cccccccc} \times & 7 & 6 & d5 & d4 & \textcircled{3} & \textcircled{2} & \textcircled{1} & \textcircled{1} & \textcircled{2} & \textcircled{3} & d4 & / & 6 & 7 & \times \\ \times & 7 & 6 & d5 & d4 & d3 & \textcircled{2} & \textcircled{1} & \textcircled{1} & d2 & d3 & d4 & d5 & 6 & 7 & \times \end{array}$

d:乳歯、○:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

No.14

保存状況

整理番号 14
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131056 加曾利北 I-4
 報告書番号 第8号人骨

発掘調査年月 1965,10~11
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第2住居址群調査区
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 勝坂
 文献 杉原荘介 編(1977)「加曾利北貝塚」中央公論美術出版

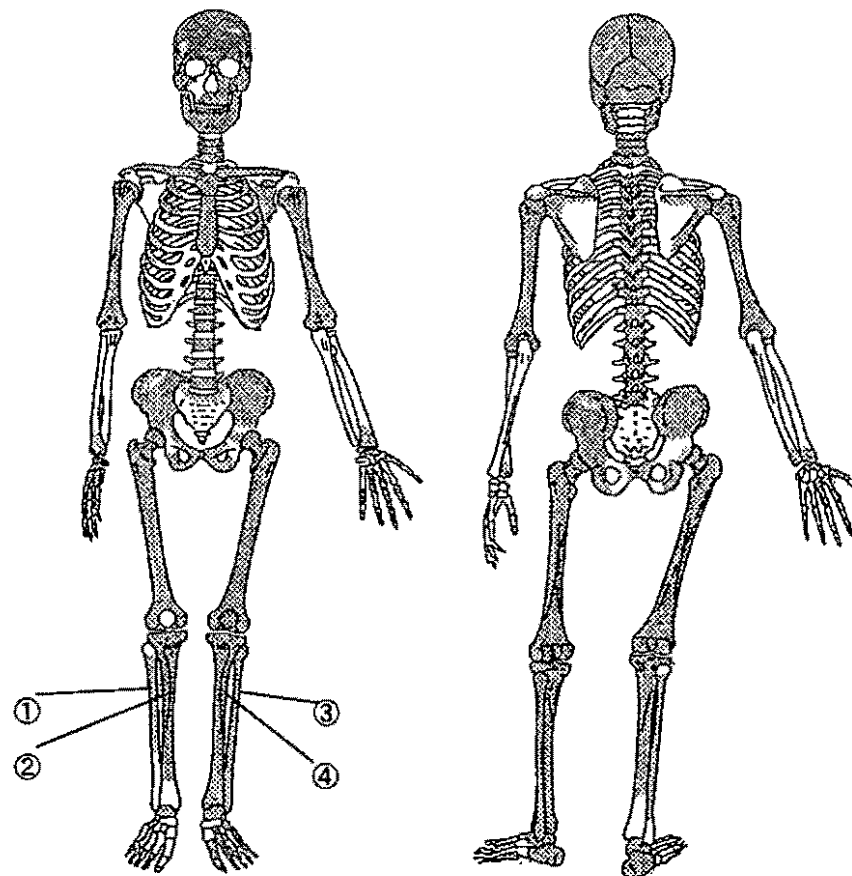
人骨調査年月 1998,12/17, 18

人骨調査者 板上

年齢 50以上

性別 男性

特記事項 東大の保管所番号は「加曾利北 I-4」であるが、発掘報告書および発掘時写真から、本標本は報告書整理時の「第8号人骨」である。①~④に骨膜炎状の骨増殖あり。



歯式 $\frac{\cancel{8} \cancel{7} 6 5 4 3 \cancel{2}}{\cancel{8} \cancel{7} 6 5 4 \textcircled{3} \textcircled{2} \textcircled{1}} \mid \frac{1 2 3 4 5 6 7 \textcircled{8}}{\textcircled{1} \textcircled{2} \textcircled{3} \textcircled{4} 5 6 7 8}$

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

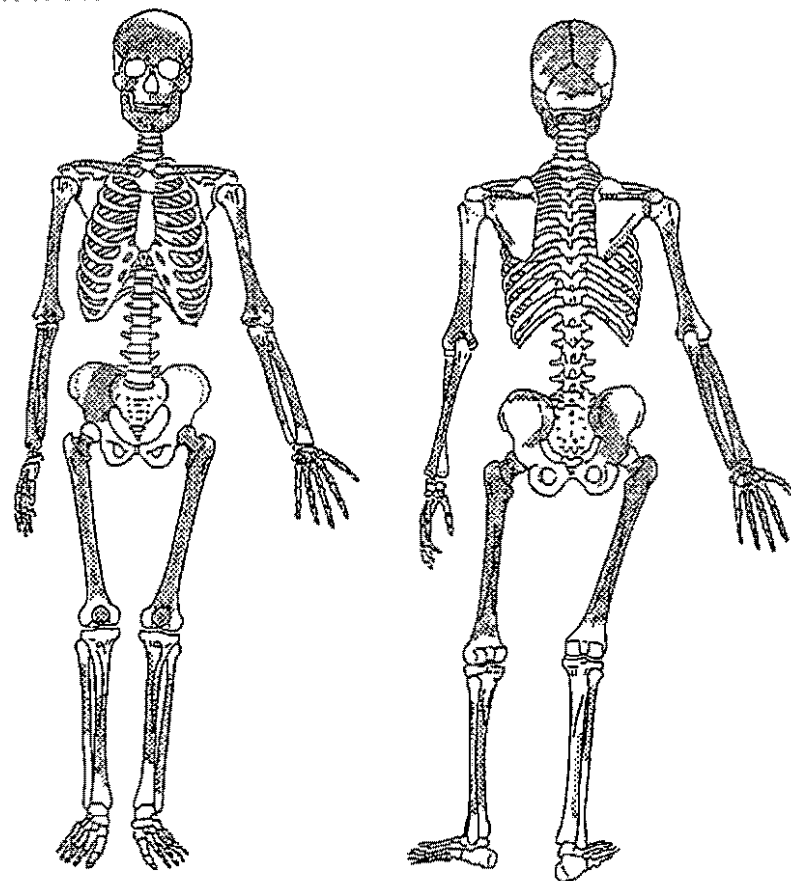
整理番号 15
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131057 加曾利北Ⅱ-5
 報告書番号 第6号人骨

発掘調査年月 1965,10~11
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第2住居址群調査区
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 勝坂
 文献 杉原荘介 編(1977)「加曾利北貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 1998,12/19、20
 人骨調査者 坂上
 年齢 20~50
 性別 女性
 特記事項

No.15

保存状況



齒式	♂	♂	♂	♂	4	3	2	1		1	2	3	④	5	6	♂	♂
	×	×	6	5	④	③	②	①		①	②	③	♂	♂	♂	♂	♂

d: 乳歯、○: 齒槽開放、/: 破損欠損、×: 齒槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

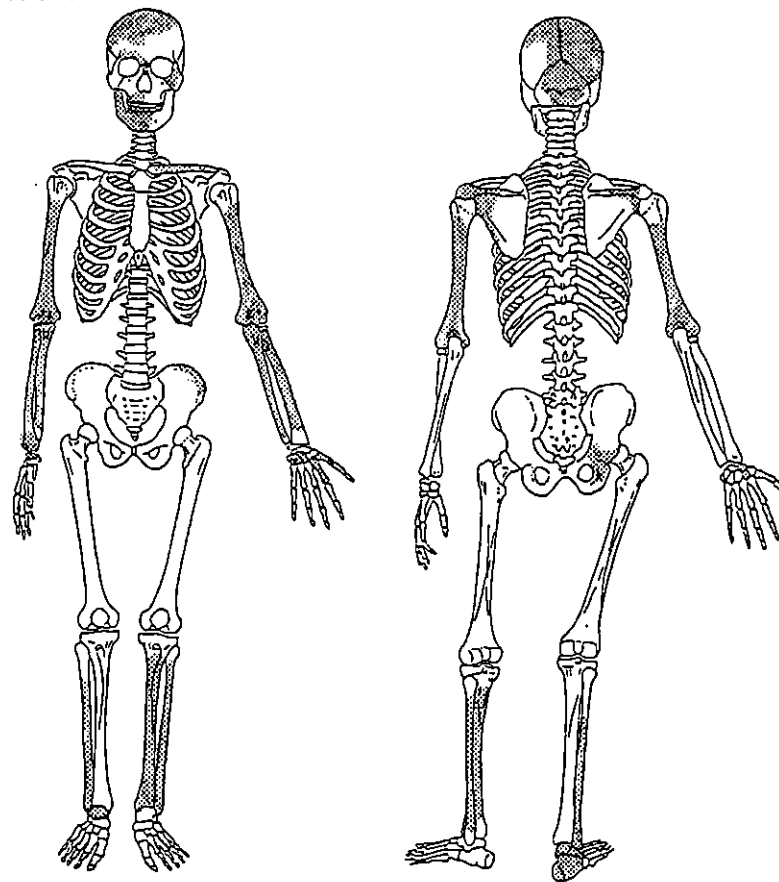
整理番号 16
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131058 加曾利北Ⅱ-6
 報告書番号 第7号人骨

 発掘調査年月 1965,10~11
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第2住居址群調査区
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 勝坂
 文献 杉原荘介 編(1977)「加曾利北貝塚」中央公論美術出版

 人骨調査年月 1998,12/20、21
 人骨調査者 坂上
 年齢 20~50
 性別 男性
 特記事項 頭蓋骨、左肩甲骨、左上腕骨近位端、上部胸椎に焼き跡がある。また、頭頂骨の焼き跡付近にカットマークらしきものがある。これらが人為的なものかは不明である。

No.16

保存状況



歯式 $\begin{array}{cccccccc|cccccccc} \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} \\ \hline 8 & 7 & 6 & 5 & 4 & 3 & 2 & 1 & 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 \end{array}$

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

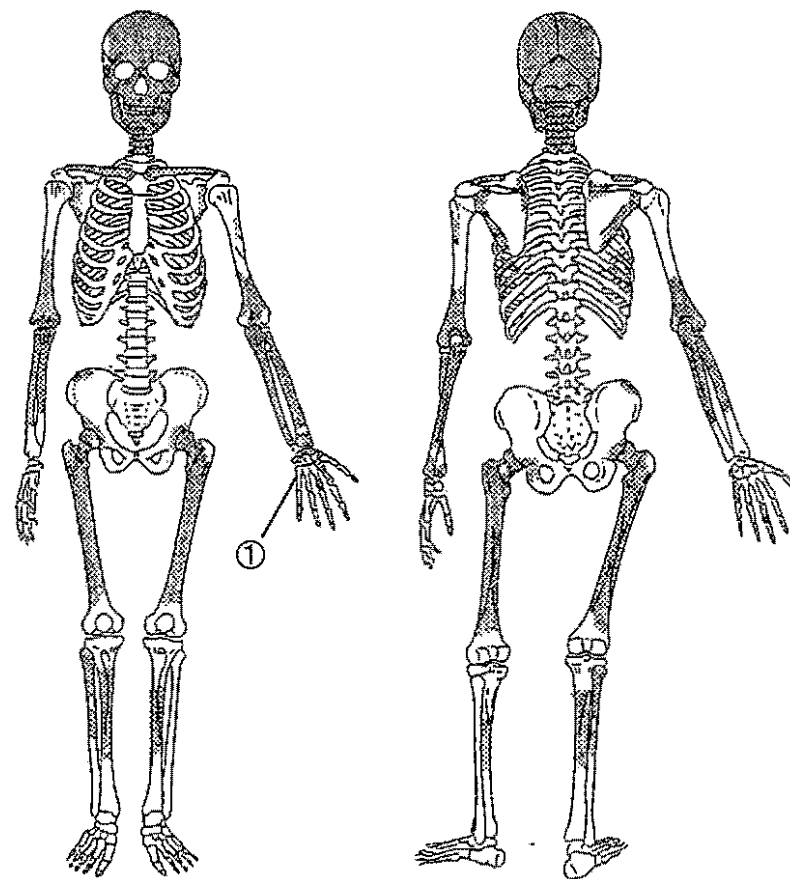
No.17

保存状況

整理番号 17
 保管場所 新潟大学医学部第一解剖学教室
 保管所番号 1号
 報告書番号 第1号人骨

発掘調査年月 1962
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第2地点
 発掘調査者 武田宗久、宍倉昭一郎、金子浩昌
 年代情報 加曾利B
 文献 武田宗久 編(1968)「加曾利貝塚 I」中央公論美術出版

人骨調査年月 1999.8/9
 人骨調査者 坂上・中島
 年齢 20~50
 性別 女性
 特記事項 ①に骨折治癒痕あり。



歯式	d	/	6	⑤	④	③	②	①		①	②	3	4	5	6	X	X
	X	X	6	5	4	3	②	①		①	②	3	4	5	6	7	X

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、x: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号 18
 保管場所 新潟大学医学部第一解剖学教室
 保管所番号 1号
 報告書番号 第1号人骨?

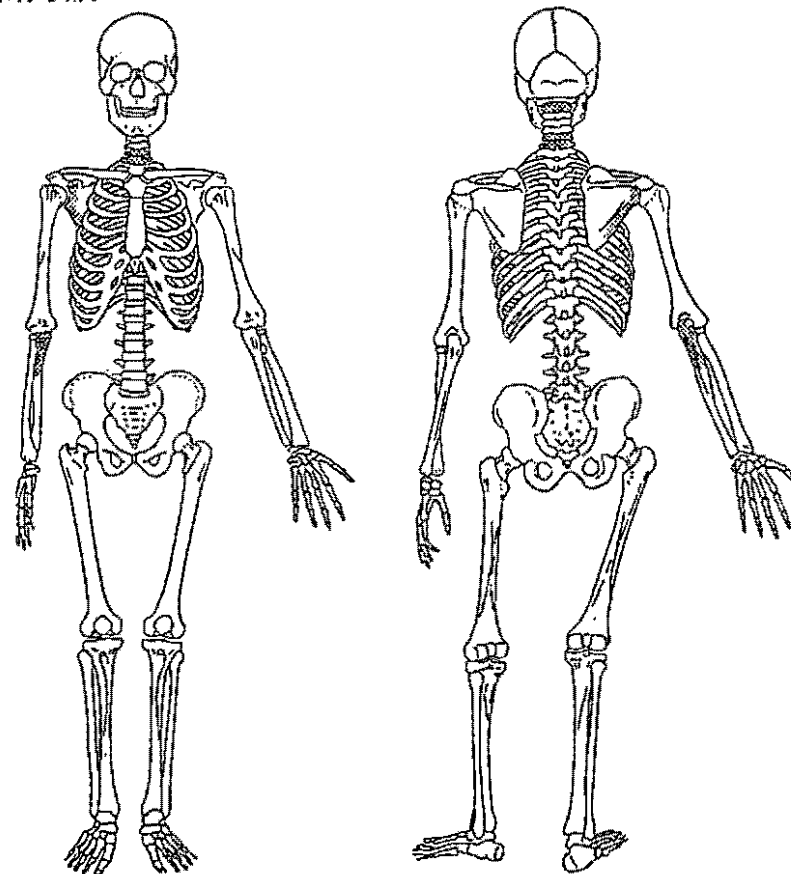
発掘調査年月 1962
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第2地点
 発掘調査者 武田宗久、穴倉昭一郎、金子浩昌
 年代情報 加曾利B?
 文献 武田宗久 編(1968)「加曾利貝塚 I」中央公論美術出版

人骨調査年月 1999.8/9
 人骨調査者 坂上・中島
 年齢 不明
 性別 男性

特記事項 本標本は「No.17」と重複する骨である。また、右肩甲骨は「IVトレ3区」という袋にあった。他の成人個体では右肩甲骨が存在するため、本標本のものである可能性が高いと考え、ここに一括する。

No.18

保存状況



歯式 $\frac{\text{I} \text{ I} \text{ I} \text{ I} \text{ A} \text{ B} \text{ C} \text{ I} \text{ I}}{\text{I} \text{ I} \text{ I} \text{ I} \text{ A} \text{ B} \text{ C} \text{ I} \text{ I}}$

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号 19
 保管場所 新潟大学医学部第一解剖学教室
 保管所番号 2号
 報告書番号 第2号人骨

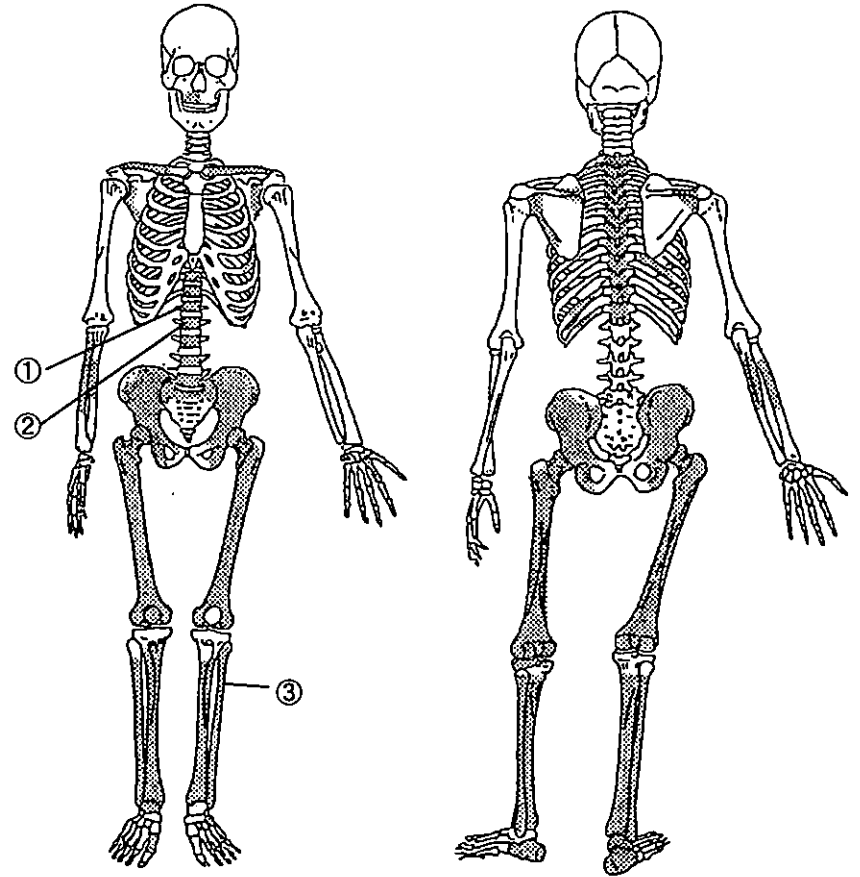
発掘調査年月 1962
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第2地点
 発掘調査者 武田宗久、穴倉昭一郎、金子浩昌
 年代情報 加曾利B
 文献 武田宗久 編(1968)「加曾利貝塚 I」中央公論美術出版

人骨調査年月 1999,8/10
 人骨調査者 坂上・中島
 年齢 20~50
 性別 男性

特記事項 「第2号人骨」の中には上顎骨が最小2個体分存在する。そのため、発掘時の記載のとおり「第2号」を「No.19」に、「第6号」を「No.20」とする。
 ①~②はリップングおよび楔状椎骨がある。③は骨折治癒痕と思われる。

No.19

保存状況



歯式 $\begin{array}{cccccccc|cccccccc} \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} \\ \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} \end{array}$

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

No.20

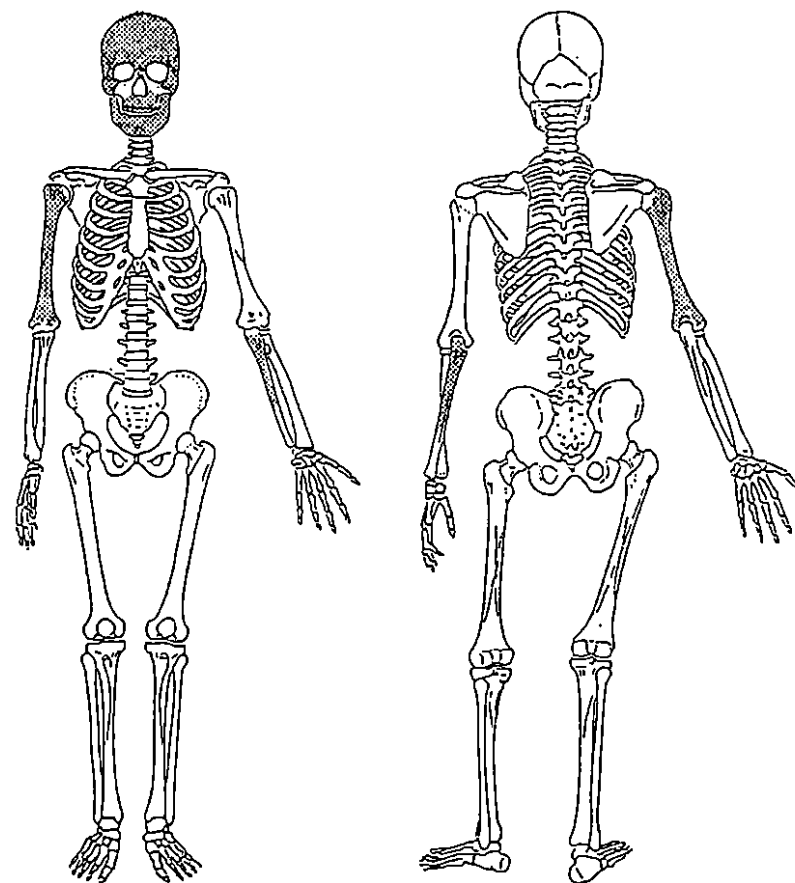
保存状況

整理番号 20
 保管場所 新潟大学医学部第一解剖学教室
 保管所番号 2号
 報告書番号 第2号人骨

発掘調査年月 1962
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第2地点
 発掘調査者 武田宗久、宍倉昭一郎、金子浩昌
 年代情報 加曾利B
 文献 武田宗久 編(1968)「加曾利貝塚 I」中央公論美術出版

人骨調査年月 1999,8/10
 人骨調査者 坂上・中島
 年齢 20~50
 性別 男性

特記事項 本標本は発掘時番号の第6号人骨である。左尺骨は「5号」と表記された袋に収納されていた重複骨であるが、骨端の癒合状況から見て本標本のものである可能性が高いため、一括した。



歯式 $\begin{array}{cccccccc|cccccccc} \text{/} & \text{/} & 6 & 5 & 4 & 3 & \text{/} & 1 & 1 & \text{/} & 3 & \text{/} & 5 & 6 & 7 & 8 \\ 8 & 7 & 6 & \text{/} & \text{/} & \text{/} & \text{/} & \text{/} & \text{/} & \text{/} & 3 & 4 & \text{/} & 6 & \text{/} & 8 \end{array}$

d:乳歯、O:歯槽開放、/ :破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号 21
 保管場所 新潟大学医学部第一解剖学教室
 保管所番号 3号
 報告書番号 第3号人骨

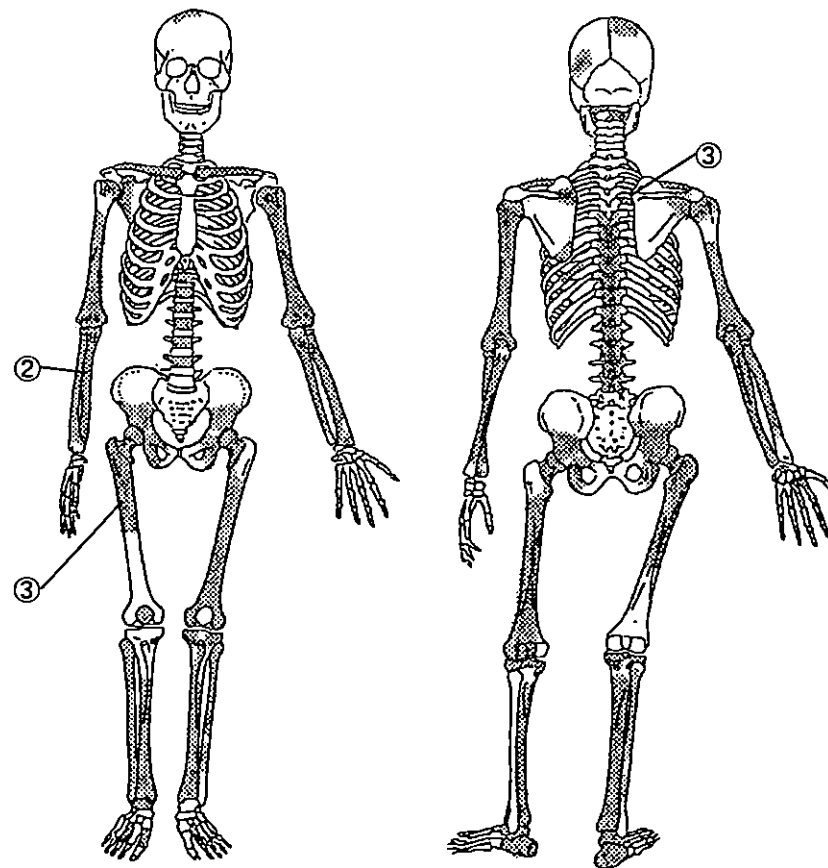
発掘調査年月 1962
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第2地点
 発掘調査者 武田宗久、宍倉昭一郎、金子浩昌
 年代情報 加曾利B
 文献 武田宗久 編(1968)「加曾利貝塚 I」中央公論美術出版

人骨調査年月 1999,8/10
 人骨調査者 坂上・中島
 年齢 20~50
 性別 男性

特記事項 ①~③は骨折治癒痕あり。椎体にリップングあり。左距骨は形態から見て「第1号人骨(No.17)」のものである可能性が高い。

No.21

保存状況



歯式

8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/ : 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

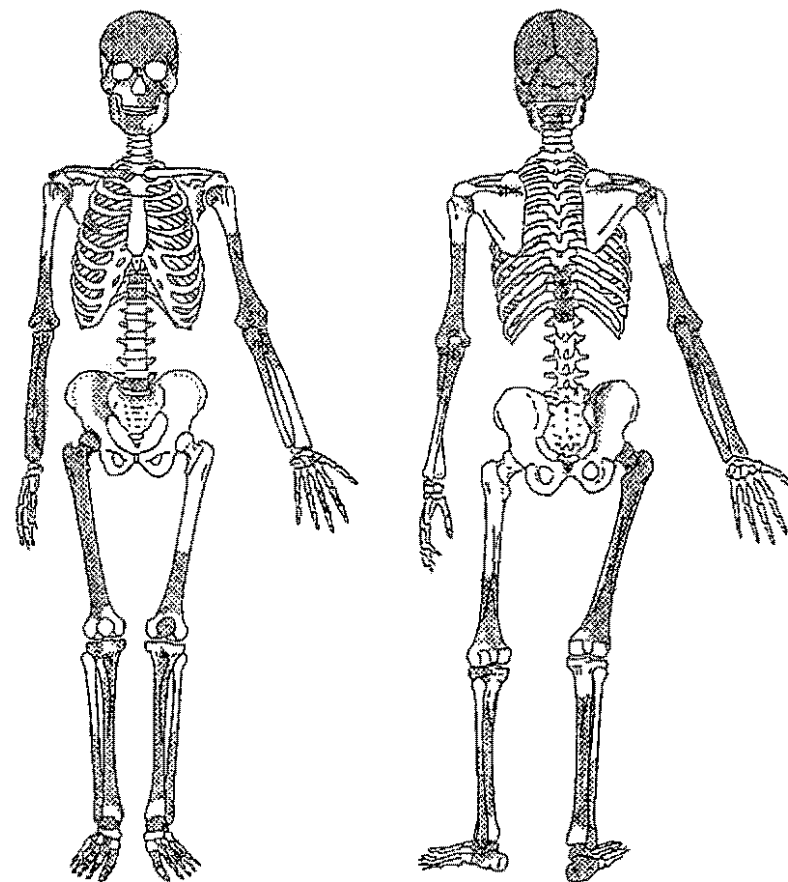
No.22

保存状況

整理番号 22
 保管場所 新潟大学医学部第一解剖学教室
 保管所番号 4号
 報告書番号 第4号人骨

発掘調査年月 1962
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第2地点
 発掘調査者 武田宗久、宍倉昭一郎、金子浩昌
 年代情報 加曾利B
 文献 武田宗久 編(1968)「加曾利貝塚 I」中央公論美術出版

人骨調査年月 1999,8/10
 人骨調査者 坂上・中島
 年齢 50以上
 性別 女性
 特記事項 椎体にリップリングあり。妊娠痕あり。



歯式 $\begin{array}{c} \text{8} \text{7} \text{6} \text{5} \text{4} \text{3} \text{2} \text{1} \text{X} \text{X} \text{X} \text{X} \text{X} \text{6} \text{7} \text{8} \\ \text{X} \text{X} \text{X} \text{X} \text{4} \text{3} \text{2} \text{1} \text{7} \text{6} \text{5} \text{4} \text{3} \text{6} \text{7} \text{8} \end{array}$

d:乳歯、○:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

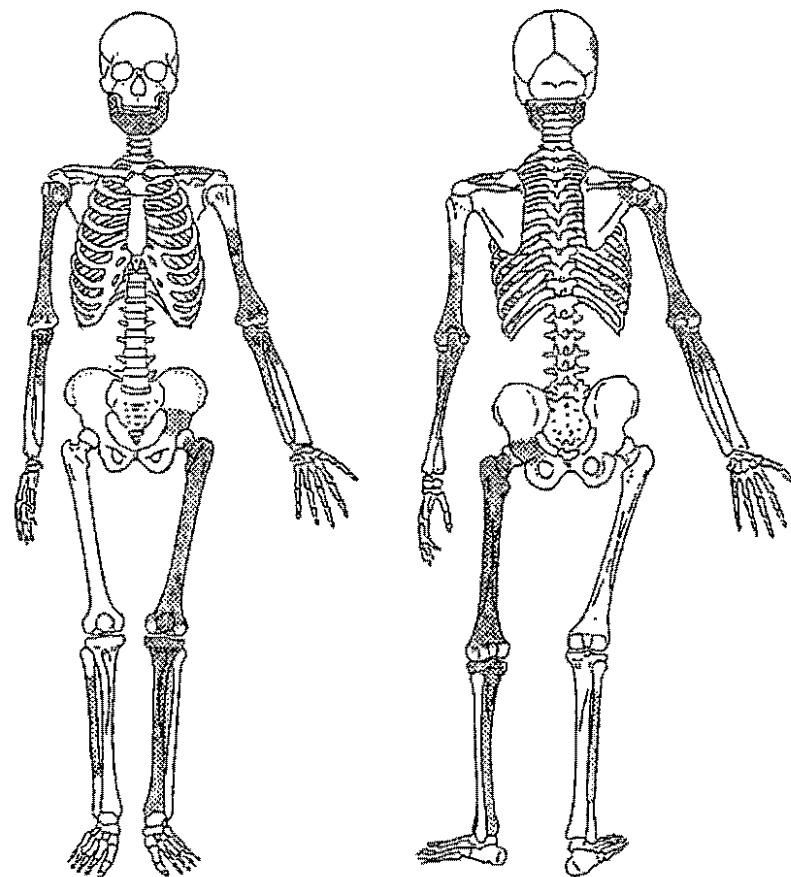
No.23

保存状況

整理番号 23
 保管場所 新潟大学医学部第一解剖学教室
 保管所番号 5号
 報告書番号 第5号人骨

発掘調査年月 1962
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第2地点
 発掘調査者 武田宗久、穴倉昭一郎、金子浩昌
 年代情報 加曾利B
 文献 武田宗久 編(1968)「加曾利貝塚 I」中央公論美術出版

人骨調査年月 1999,8/10
 人骨調査者 坂上・中島
 年齢 12, 3
 性別 不明
 特記事項 軸椎の横突孔が変形



歯式 $\frac{8}{8} \frac{7}{7} \frac{6}{6} \frac{5}{5} \frac{4}{4} \frac{3}{3} \frac{2}{2} \frac{1}{1} \mid \frac{1}{1} \frac{2}{2} \frac{3}{3} \frac{4}{4} \frac{5}{5} \frac{6}{6} \frac{7}{7} \frac{8}{8}$

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号 24
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131059 加曾利南(1964) 1
 報告書番号 第1号人骨

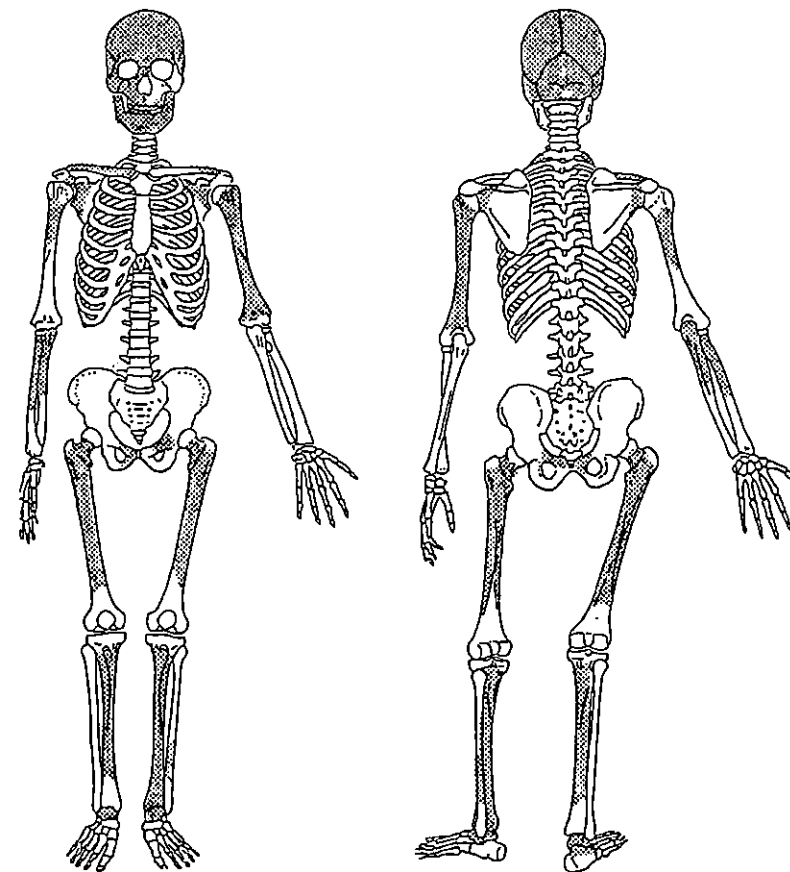
発掘調査年月 1964.8
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Ⅱトレンチ1区、44-15グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 安行Ⅱ
 文献 武田宗久 編(1968)「加曾利貝塚Ⅰ」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000,7/6
 人骨調査者 坂上・松川
 年齢 12、3
 性別 女性

特記事項 東大の「加曾利南(1964)1号」には頭蓋が2個体分存在するが、四肢骨年齢と発掘時写真から本標本(No.24)は「加曾利南第1号人骨」である。

No.24

保存状況



歯式 $\overline{\text{8} \ 7 \ 6 \ 5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1 \ | \ 1 \ \text{X} \ 3 \ 4 \ \text{8} \ \text{8} \ 7 \ 8}$
 $\text{X} \ 7 \ 6 \ d5 \ d4 \ 3 \ 2 \ 1 \ | \ 1 \ 2 \ 3 \ d4 \ d5 \ 6 \ 7 \ \text{X}$

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

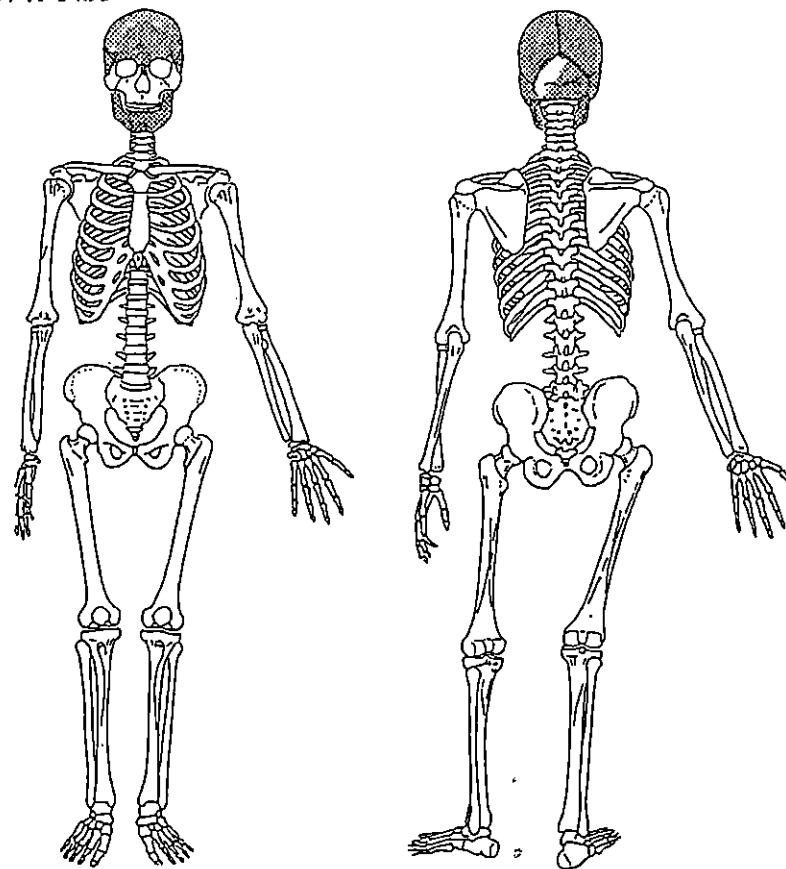
整理番号 25
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131059 加曾利南(1964) 1
 報告書番号 不明

発掘調査年月 1964.8~10
 発掘調査地区 不明
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 不明
 文献 武田宗久 編(1968)「加曾利貝塚 I」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000.7/6
 人骨調査者 坂上・松川
 年齢 20~50
 性別 男性
 特記事項

No.25

保存状況



歯式	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
	♂	♂	×	×	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

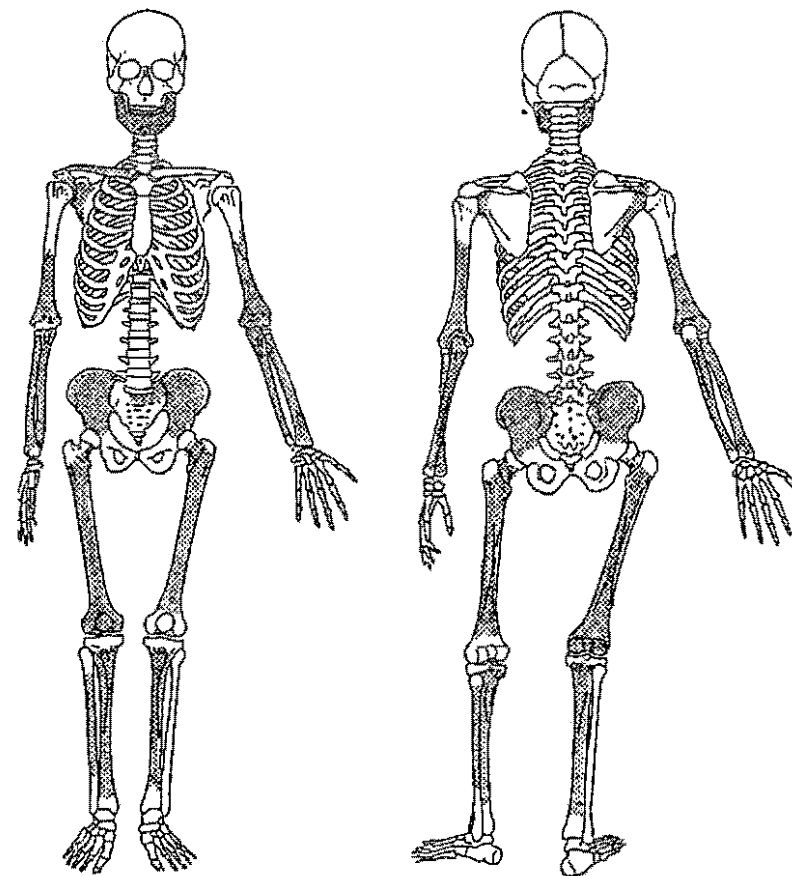
No.26

保存状況

整理番号 26
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131060 加曾利南(1964) 2
 報告書番号 第2号人骨

 発掘調査年月 1964,8
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Ⅱトレンチ4区、44-72グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内Ⅰ
 文献 武田宗久 編(1968)「加曾利貝塚Ⅰ」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000,7/6
 人骨調査者 坂上・松川
 年齢 8、9
 性別 女性
 特記事項



歯式 $\frac{8 \times \times d5 d4 d3 / \times | \times / d3 d4 d5 \textcircled{6} \times /}{8 \times \textcircled{6} d5 d4 d3 2 1 | / / / d4 d5 \textcircled{6} \times 8}$

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、x:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

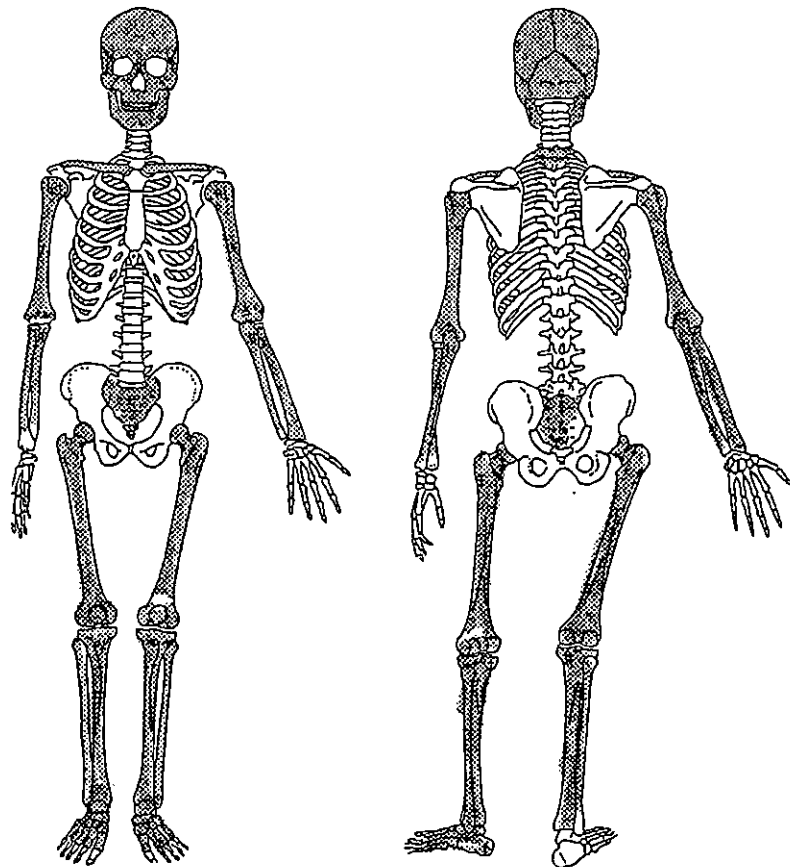
整理番号 27
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131061 加曾利南(1964)3
 報告書番号 第3号人骨

発掘調査年月 1964,8
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Iトレンチ1区、72-44と73-44グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 加曾利B
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000,7/6
 人骨調査者 坂上・松川
 年齢 30~50
 性別 男性
 特記事項

No.27

保存状況



歯式	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8
	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8	

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/ : 破損欠損、× : 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

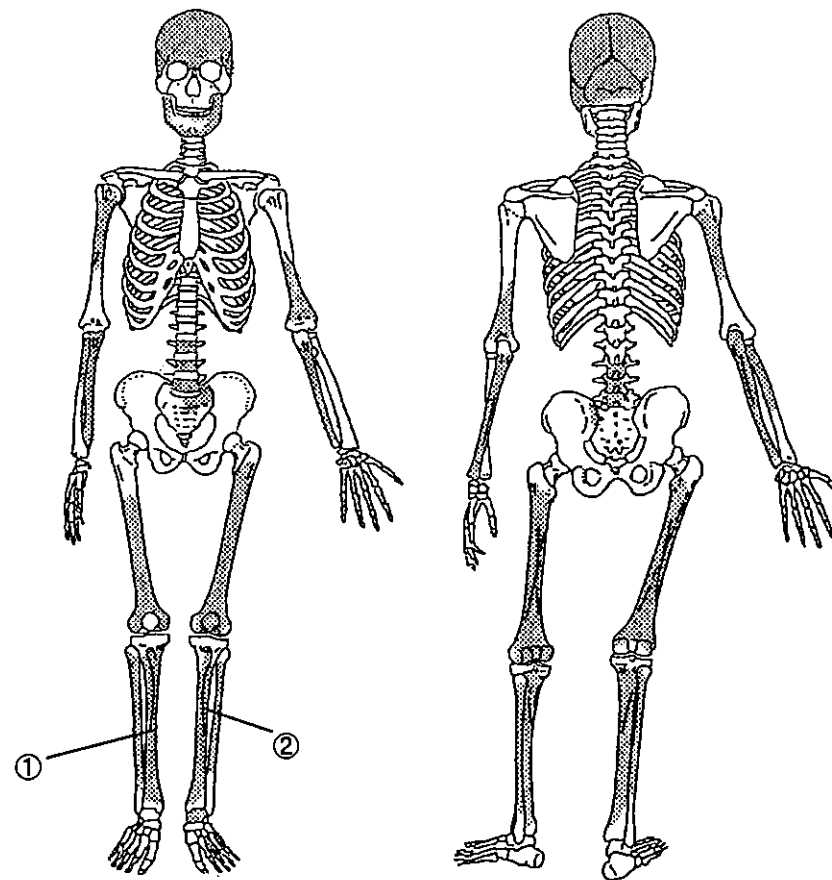
整理番号 28
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131062 加曾利南(1964)5
 報告書番号 第5号人骨

発掘調査年月 1964,8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Vトレンチ2区、54-66グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内 I
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000,7/13
 人骨調査者 坂上・松川
 年齢 20~50
 性別 女性
 特記事項 腰椎にリップングあり。①~②に浅い切痕状の痕跡あり。

No.28

保存状況



歯式	8	/	/	/	/	2	1		/	/	3	4	5	6	7	8	
	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	X	X	⑥	X	X

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号 29
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131063 加曾利南(1964)6
 報告書番号 第6号人骨

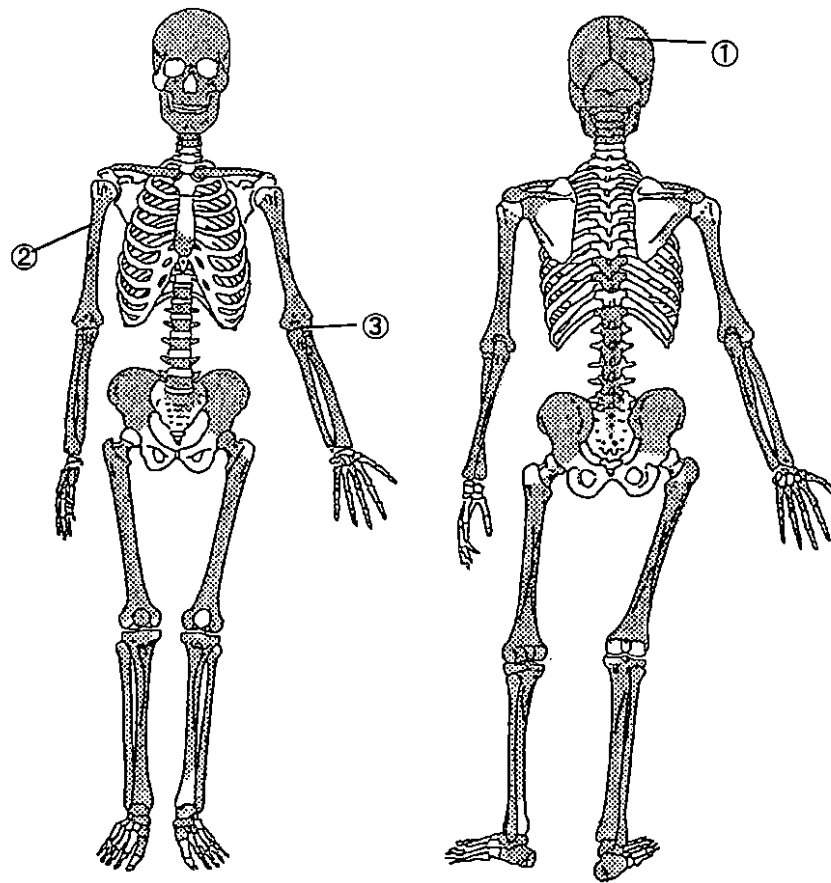
発掘調査年月 1964.8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Vトレンチ2区、52-66グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内 I
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000.7/13
 人骨調査者 坂上・松川
 年齢 25~40
 性別 男性

特記事項 ①は円形の穿孔があり、②にはenthesopathyが、③には脱臼による偽関節がある。

No.29

保存状況



歯式	⑧	7	6	5	4	3	2	①	1	②	♂	♂	♂	♂	♂	♂	8
	8	7	6	5	4	3	②	①	①	②	3	4	5	6	7	8	

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

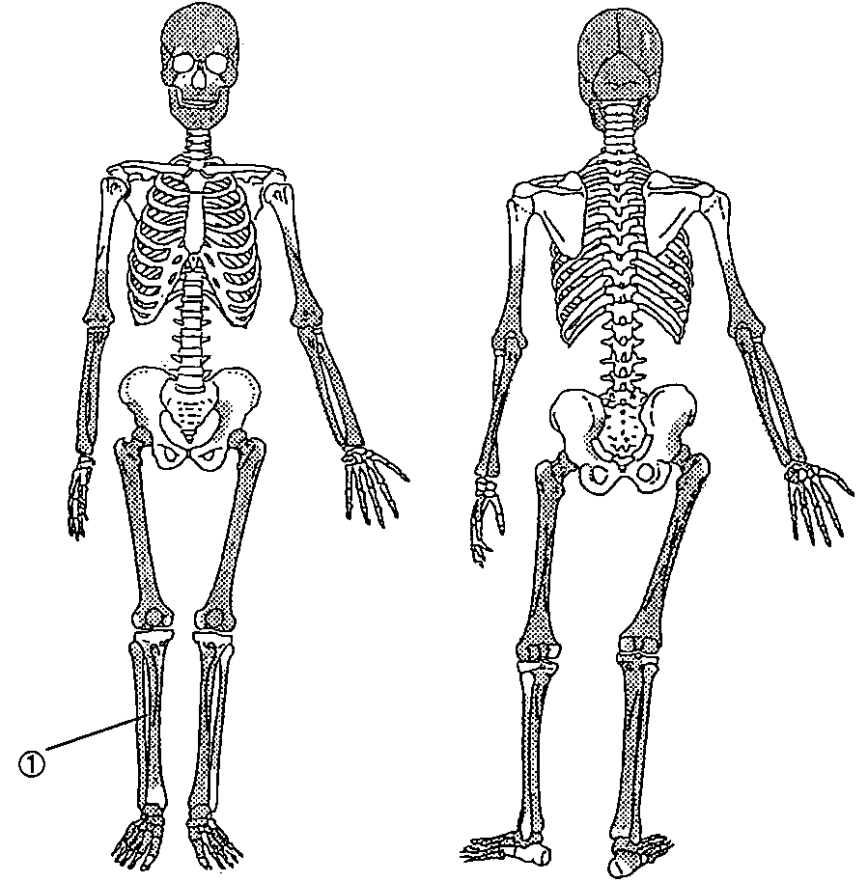
加曾利貝塚出土人骨

No.30

保存状況

整理番号 30
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131064 加曾利南(1964)7a
 報告書番号 第7号人骨

 発掘調査年月 1964,8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Vトレンチ2区、55-66から56-66グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内I
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版



人骨調査年月 2000,7/21
 人骨調査者 坂上・松川・中島
 年齢 30~50
 性別 男性
 特記事項 東大の保管所番号では「第7号人骨」は「7a」と「7b」の2個体存在する。
 発掘時報告書および写真では本標本(No.30)が第7号人骨に対応する。
 ①は骨膜炎状の骨増殖あり。

歯式	8	7	6	5	4	③	②	/	①	2	3	4	5	6	7	8	
	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8

d: 乳歯、○: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

No.31

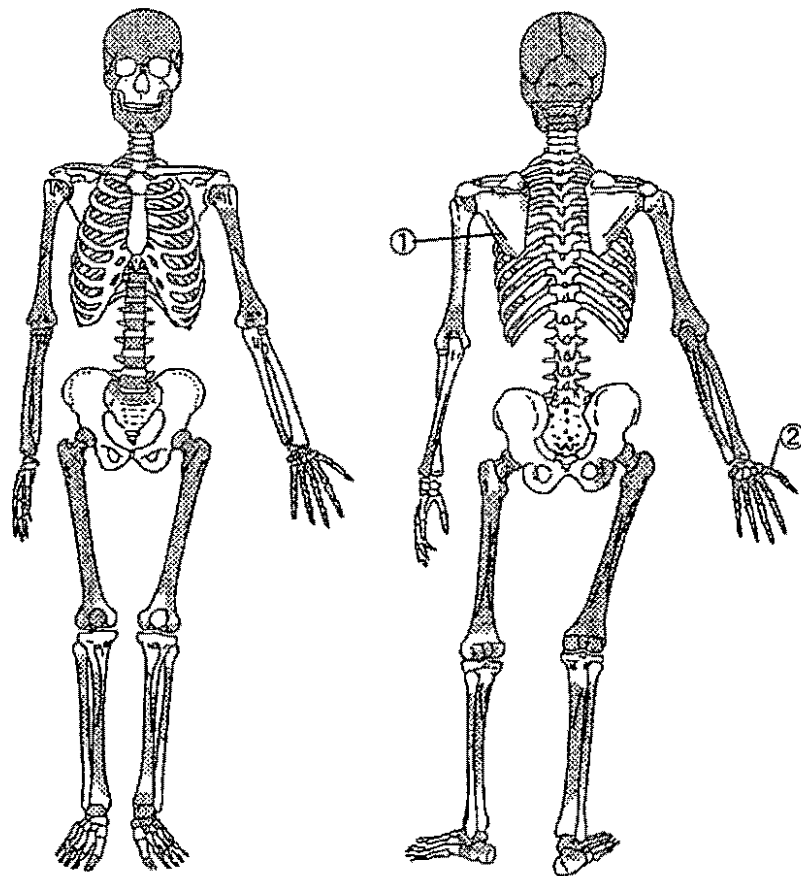
保存状況

整理番号 31
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131065 加曾利南(1964)7b
 報告書番号 不明

発掘調査年月 1964.8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Vトレンチ2区、56-66から56-66グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 不明
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000.7/21
 人骨調査者 坂上・松川・中島
 年齢 50以上
 性別 女性

特記事項 東大の保管所番号では7号は「7a」と「7b」の2個体存在するが、発掘時報告および写真では「7b」に対応する個体は存在しない。①の肩甲骨は2個体分存在するが「7a」のものである可能性あり。②は変形性関節症。



歯式 $\frac{8 \ 1 \ 8 \ 8 \ 4 \ 8 \ 2 \ 1}{1 \ 2 \ 8 \ 4 \ 8 \ 8 \ 1 \ 8}$
 $\frac{\times \times \times \times \times \textcircled{3} \times \times}{\times \textcircled{2} \textcircled{3} \times \times \times \textcircled{7} \textcircled{8}}$

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

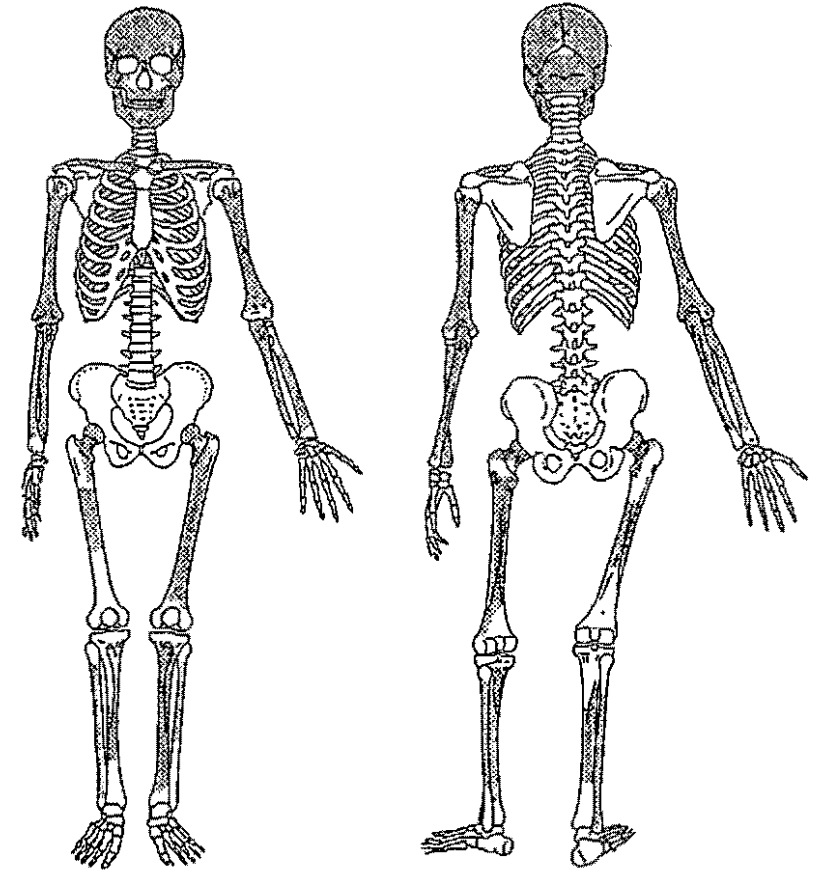
加曾利貝塚出土人骨

No.32

保存状況

整理番号 32
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131064 加曾利南(1964)9
 報告書番号 第9号人骨

 発掘調査年月 1964,8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Vトレンチ2区、66-25グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 加曾利B
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版



人骨調査年月 2000,8/3
 人骨調査者 坂上・松川
 年齢 20~50
 性別 男性
 特記事項

歯式	X	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8
	8	7	6	5	4	3	②	①		①	②	3	4	5	6	7	8

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

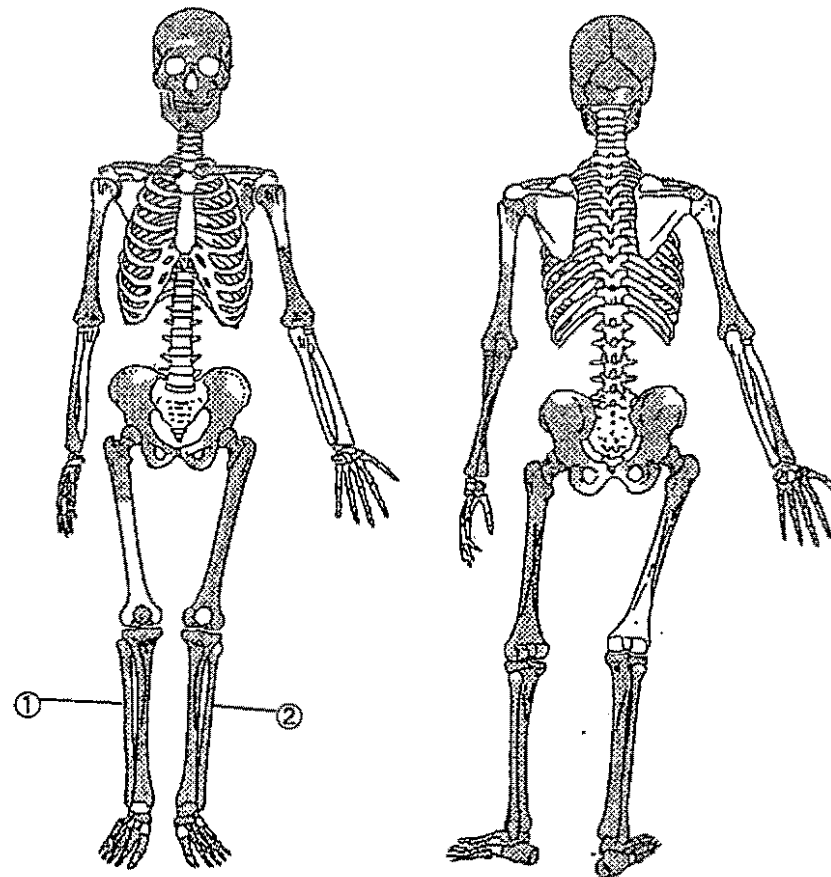
No.33

保存状況

整理番号 33
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131067 加曾利南(1964)10
 報告書番号 第10号人骨

発掘調査年月 1964.8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Vトレンチ1区、71-66グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内 I
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000.8/3
 人骨調査者 坂上・松川
 年齢 20~30
 性別 男性
 特記事項 ①、②に骨膜炎状の骨増殖あり。



歯式	8	7	6	5	④	3	2	①		1	②	3	4	5	6	7	⑧
	8	7	6	5	4	3	2	①		①	2	3	4	5	6	7	8

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、x:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

No.34

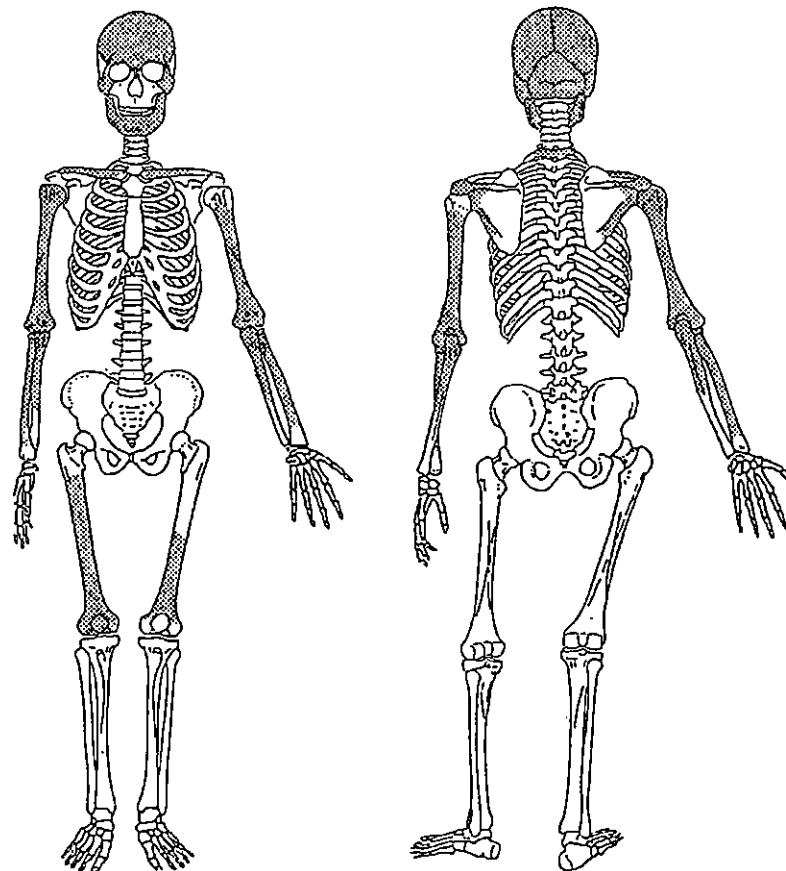
保存状況

整理番号 34
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131068+131069 加曾利南(1964)10'+13
 報告書番号 第13号人骨

発掘調査年月 1964,8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Vトレンチ2区、23-37から23-38グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内 I
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000,8/3
 人骨調査者 坂上・松川
 年齢 30~50
 性別 女性

特記事項 東大番号「加曾利10'」は頭蓋骨のみ存在し、「加曾利南13」は四肢骨しか存在しない。発掘時写真から判断すると、「10'」は報告書の「第13号人骨」の可能性が高いため、ここで一括した。



歯式	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
	×	⑦	×	5	4	③	2	①	①	②	③	4	×	×	×	×

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

No.35

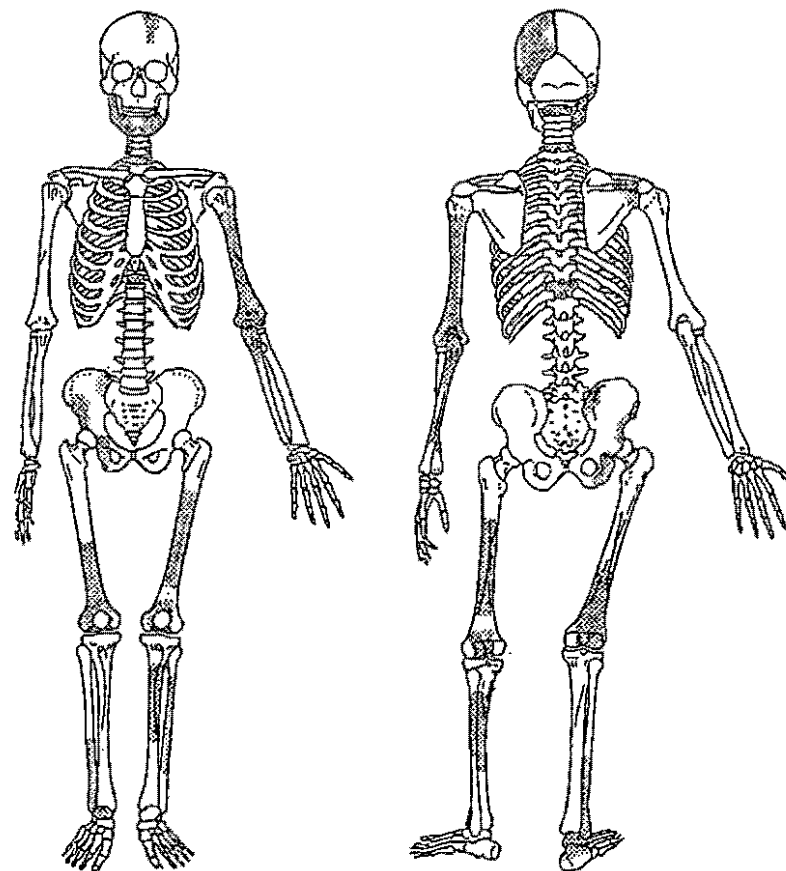
保存状況

整理番号 35
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131070 加曾利南(1964)16
 報告書番号 第16号人骨

発掘調査年月 1964,8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Vトレンチ3区、66-52グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内I
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000,8/12
 人骨調査者 坂上
 年齢 20~50
 性別 女性

特記事項 東大の保管所番号「加曾利南16」は最小3個体が混入し、内男性2個体女性1個体である。これらは報告書によれば散乱骨であり、確実に別個体として区別できる部分以外は仮に本標本に属するとした。



歯式

8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8
									①	②	③					

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、x: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

No.36

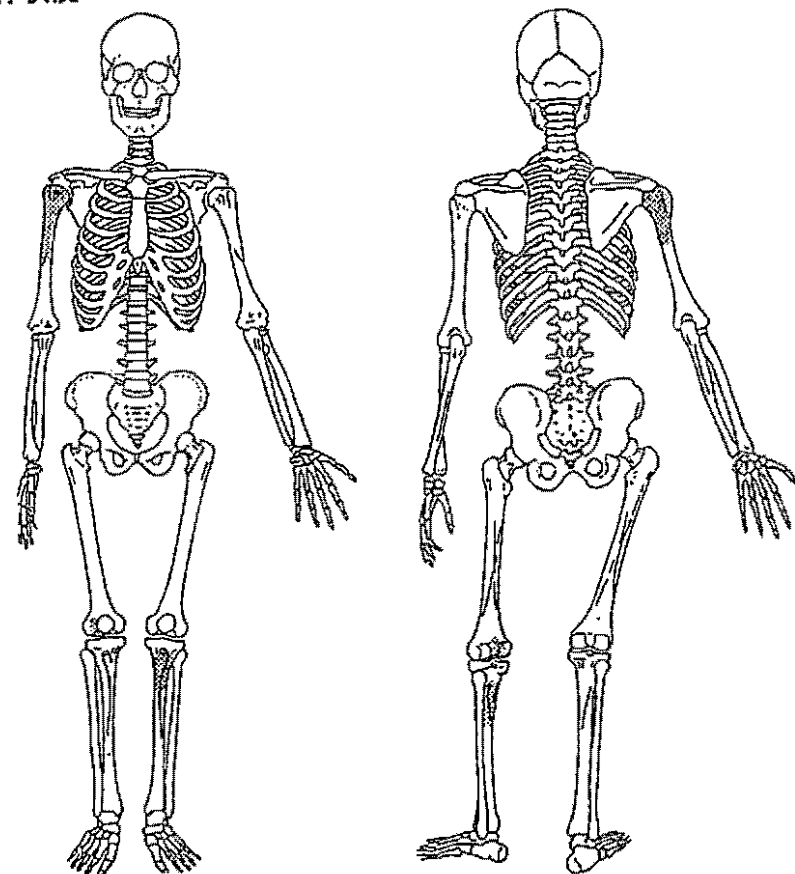
保存状況

整理番号 36
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131070 加曾利南(1964)16
 報告書番号 第16号人骨

発掘調査年月 1964.8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Vトレンチ3区、66-52グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内I
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000.8/12
 人骨調査者 坂上
 年齢 20~50
 性別 男性

特記事項 東大の保管所番号「加曾利南16」は最小3個体が混入し、内男性2個体
 女性1個体である。本標本は其中最も頑丈な骨格である。



歯式 $\frac{I \ I \ 2 \ 2 \ 4 \ 2 \ 2 \ 1 \ 1 \ 2 \ 2 \ 4 \ 2 \ 2 \ 1 \ 2}{I \ I \ 2 \ 2 \ 4 \ 2 \ 2 \ 1 \ 1 \ 2 \ 2 \ 4 \ 2 \ 2 \ 1 \ 2}$

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、x:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号 37
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131070 加曾利南(1964)16
 報告書番号 第16号人骨

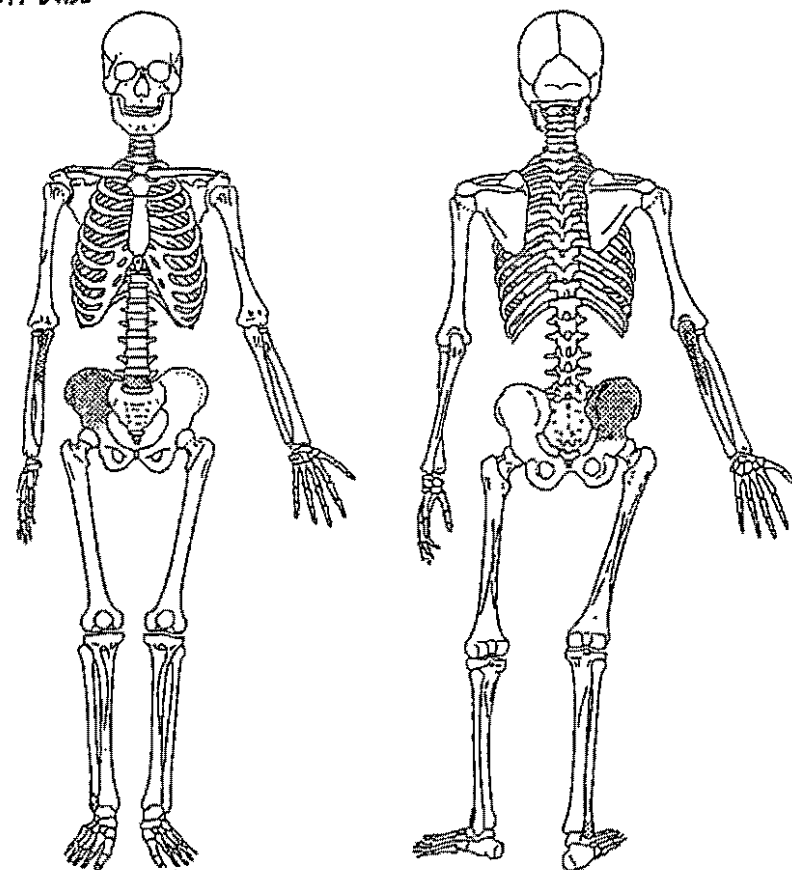
発掘調査年月 1964.8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Vトレンチ3区、66-52グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 堀之内I
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000.8/12
 人骨調査者 坂上
 年齢 20~50
 性別 女性

特記事項 東大の保管所番号「加曾利南16」は最小3個体が混入し、内男性2個体
 女性1個体である。本標本は其中最も華奢な骨格である。

No.37

保存状況



歯式 $\begin{array}{cccccccc|cccccccc} \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} \\ \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} & \text{I} \end{array}$

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/: 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

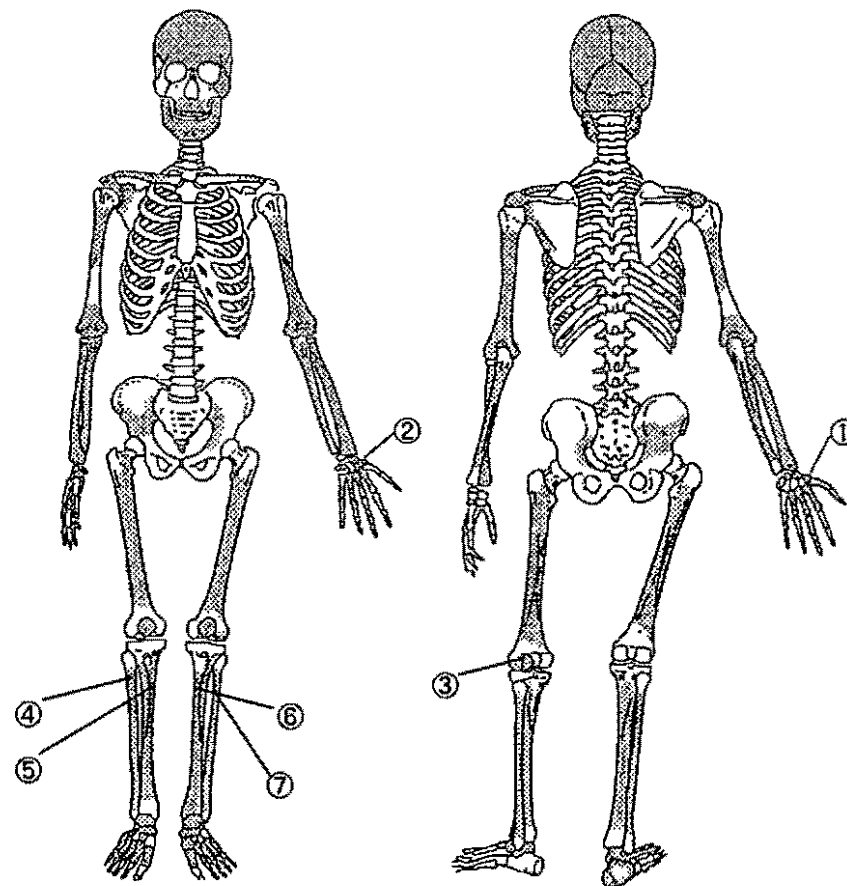
No.38

保存状況

整理番号 38
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131071 加曾利南(1964)17
 報告書番号 第17号人骨
 発掘調査年月 1964,8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第VIトレンチ3区、66-52グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 加曾利B
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000,8/12
 人骨調査者 坂上
 年齢 20~40
 性別 男性

特記事項 東大保管所番号「加曾利南17」は最小3個体が混入しているが、本標本が発掘時の「17号」である。右大菱形骨は「No.31」の第一中手骨と関節する。①~③は変形性関節症、④~⑦は骨膜炎状骨増殖がある。



歯式	X	⑦	⑥	5	4	X	X	1	1	2	3	4	5	6	⑦	X
	X	7	6	5	4	③	X	X	X	②	3	④	5	6	7	8

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/ : 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号 39
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131071 加曾利南(1964)17
 報告書番号 不明

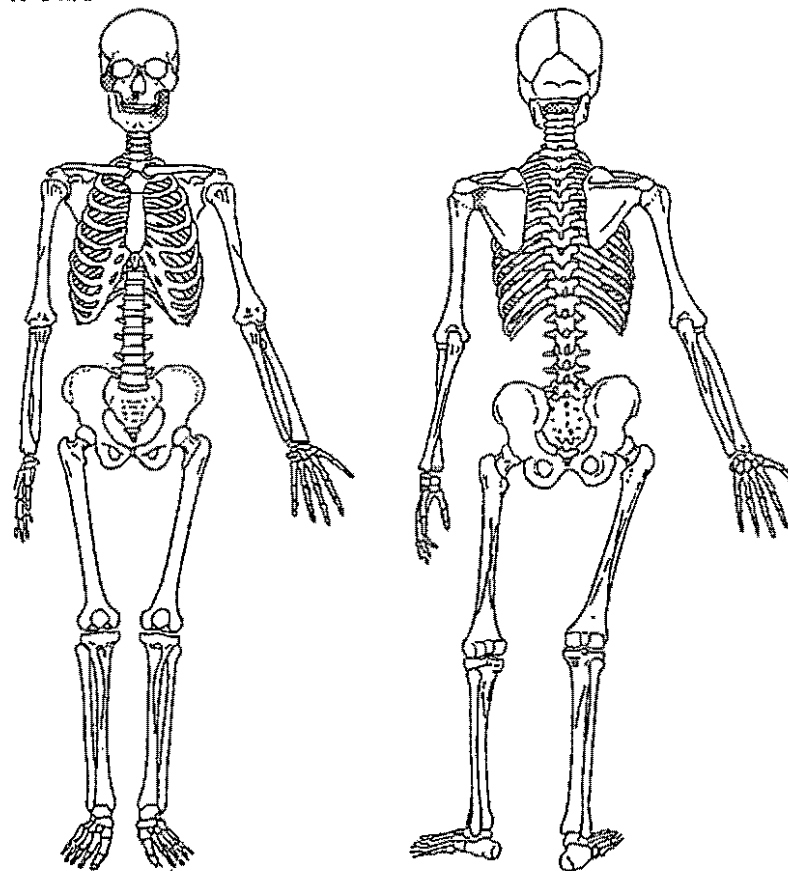
発掘調査年月 1964.8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第VIトレンチ3区、66-52グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 加曾利B
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000.8/12
 人骨調査者 坂上
 年齢 20以上
 性別 不明

特記事項 東大保管所番号「加曾利南17」は最小3個体が混入しているが、本標本は「No.38」と重複部分があるものを集めたもので便宜上の個体分けである。

No.39

保存状況



歯式 $\begin{array}{c} \times \times 6 \textcircled{5} 4 \textcircled{3} 2 1 \mid 1 2 3 4 \textit{/} \textit{/} \textit{/} \textit{/} \\ \textit{/} \textit{/} \textit{/} \textit{/} 4 3 \textit{/} 1 \mid 1 2 3 4 \textcircled{5} 6 \textcircled{7} \textit{/} \end{array}$

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

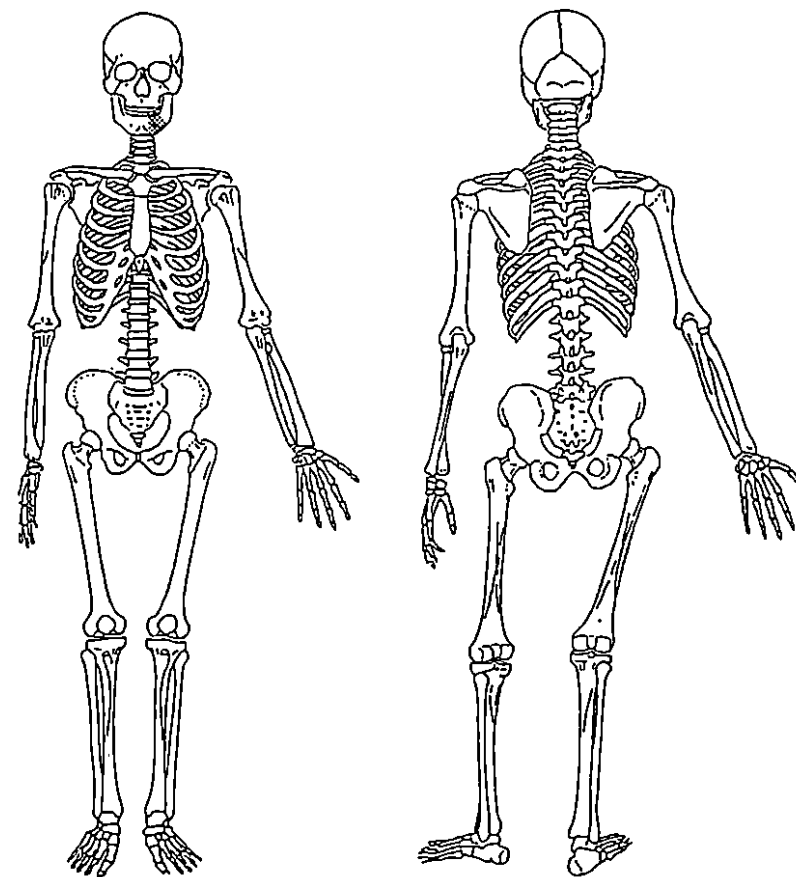
加曾利貝塚出土人骨

No.40

保存状況

整理番号 40
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131071 加曾利南(1964)17
 報告書番号 不明

発掘調査年月 1964.8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第VIトレンチ3区、66-52グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 加曾利B
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版



人骨調査年月 2000.8/12
 人骨調査者 坂上
 年齢 20以上
 性別 不明

特記事項 東大保管所番号「加曾利南17」は最小3個体が混入しているが、本標本は「No.38」および「No.39」と重複部分があるものを集めたもので便宜上の個体分けである。

歯式 $\frac{I \ I \ I \ I \ A \ I \ I \ I \ | \ I \ I \ I \ A \ I \ I \ I \ I}{I \ I \ I \ I \ A \ I \ I \ I \ | \ I \ I \ I \ A \ ⑤ \ 6 \ ⑦ \ I}$

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

No.41

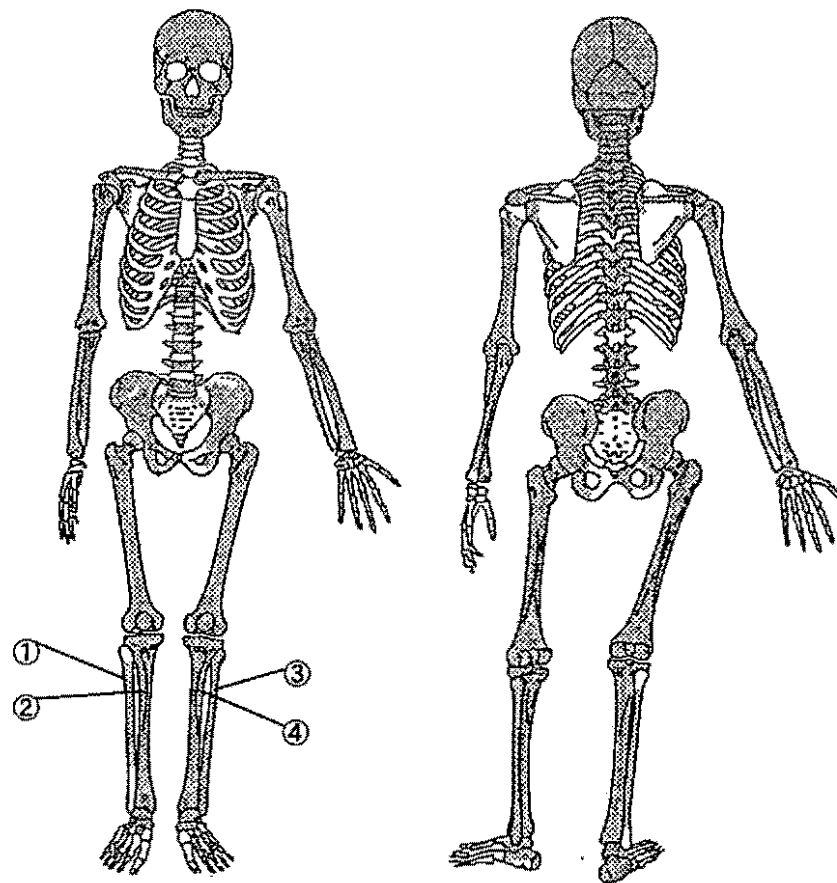
保存状況

整理番号 41
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131072 加曾利南(1964)18
 報告書番号 第18号人骨

発掘調査年月 1964,8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第Ⅶトレンチ3区、66-55グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 加曾利B
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000,8/12
 人骨調査者 坂上
 年齢 30~50
 性別 男性

特記事項 ①~④に骨膜炎状の骨増殖あり。



歯式	8	7	6	5	4	×	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8
	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号 42
 保管場所 東京大学総合研究博物館
 保管所番号 UMUT-AP-HB-131073 加曾利南(1964)19
 報告書番号 第19号人骨

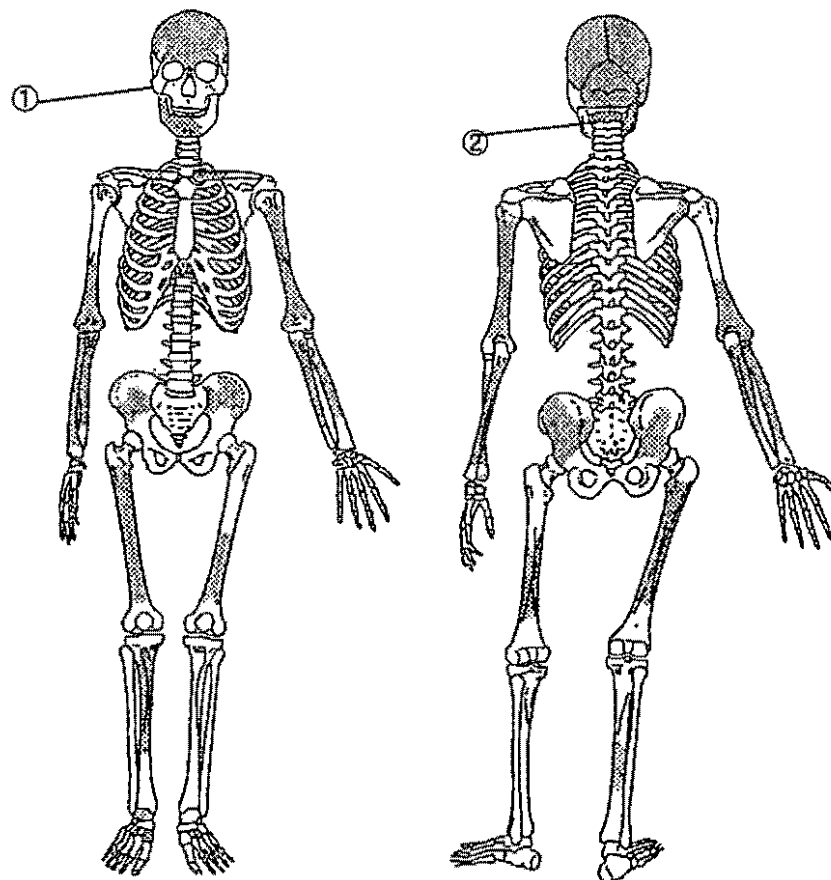
発掘調査年月 1964.8~10
 発掘調査地区 加曾利南貝塚第VIトレンチ3区、66-56グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 加曾利B I
 文献 杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000.8/24
 人骨調査者 坂上・松川
 年齢 20~50
 性別 女性

特記事項 東大の保管所番号「加曾利南19」には最小で女性2個体が混入されている。報告書および発掘写真から本標本が発掘時の「第19号人骨」である。①は顎関節症、②は変形性関節症があり。

No.42

保存状況



歯式 $\begin{array}{c} \overline{\text{8} \text{ 7} \text{ 6} \text{ 5} \text{ 4} \text{ 3} \text{ 2} \text{ 1} \mid \text{1} \text{ 2} \text{ 3} \text{ 4} \text{ 5} \text{ 6} \text{ 7} \text{ 8}} \\ \text{X} \text{ X} \text{ 6} \text{ X} \text{ 4} \text{ 3} \text{ 2} \text{ X} \mid \text{1} \text{ 2} \text{ 3} \text{ 4} \text{ 5} \text{ 6} \text{ 7} \text{ 8} \end{array}$

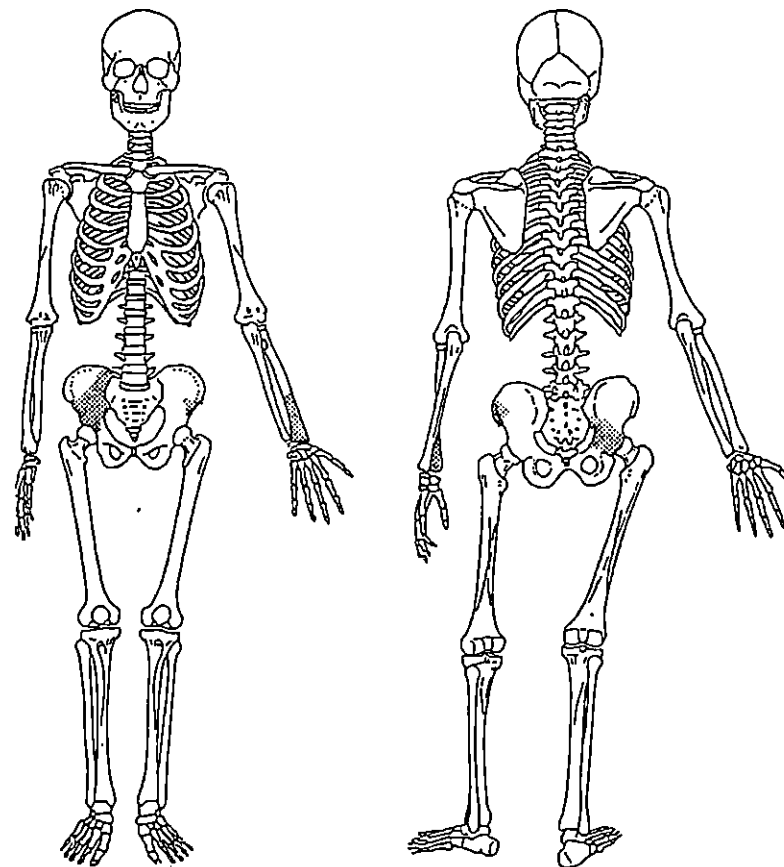
d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

整理番号	43
保管場所	東京大学総合研究博物館
保管所番号	UMUT-AP-HB-131073 加曾利南(1964)19
報告書番号	不明
発掘調査年月	1964.8~10
発掘調査地区	加曾利南貝塚第VIトレンチ3区、66-56グリッド
発掘調査者	加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
年代情報	加曾利B I
文献	杉原荘介 編(1976)「加曾利南貝塚」中央公論美術出版
人骨調査年月	2000.8/24
人骨調査者	坂上・松川
年齢	20~50
性別	女性
特記事項	東大の保管所番号「加曾利南19」には最小で女性2個体が混入されている。「No.42」と重複した部分を便宜上「No.43」とした。

No.43

保存状況



歯式

I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/ : 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

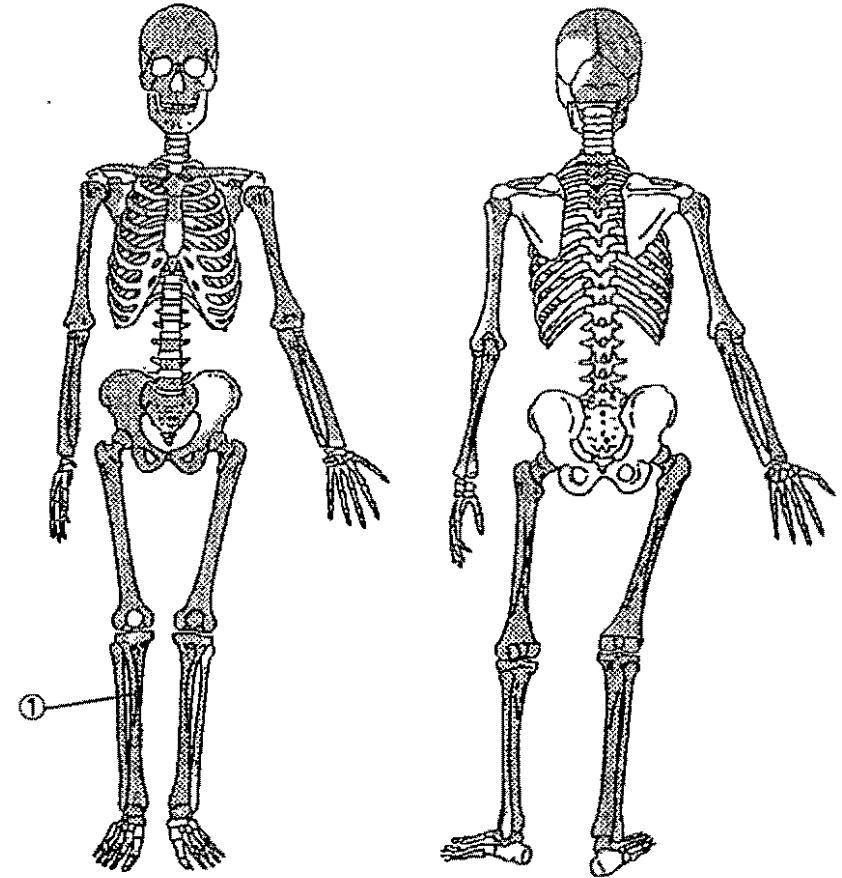
加曾利貝塚出土人骨

No.44

保存状況

整理番号 44
 保管場所 加曾利貝塚博物館
 保管所番号 43年度発掘1号人骨
 報告書番号 第1号人骨

 発掘調査年月 1968,8~9
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第4調査区 Iトレンチ、6グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 加曾利E II
 文献 滝口宏 編(1977)「加曾利貝塚 IV」中央公論美術出版



人骨調査年月 2000,7/17
 人骨調査者 坂上
 年齢 30~50
 性別 男性
 特記事項 展示用の固定をしているため、左半身が土に埋もれている。
 ①は外傷が治癒した痕跡あり。

歯式	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

d: 乳歯、O: 歯槽開放、/ : 破損欠損、×: 歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

加曾利貝塚出土人骨

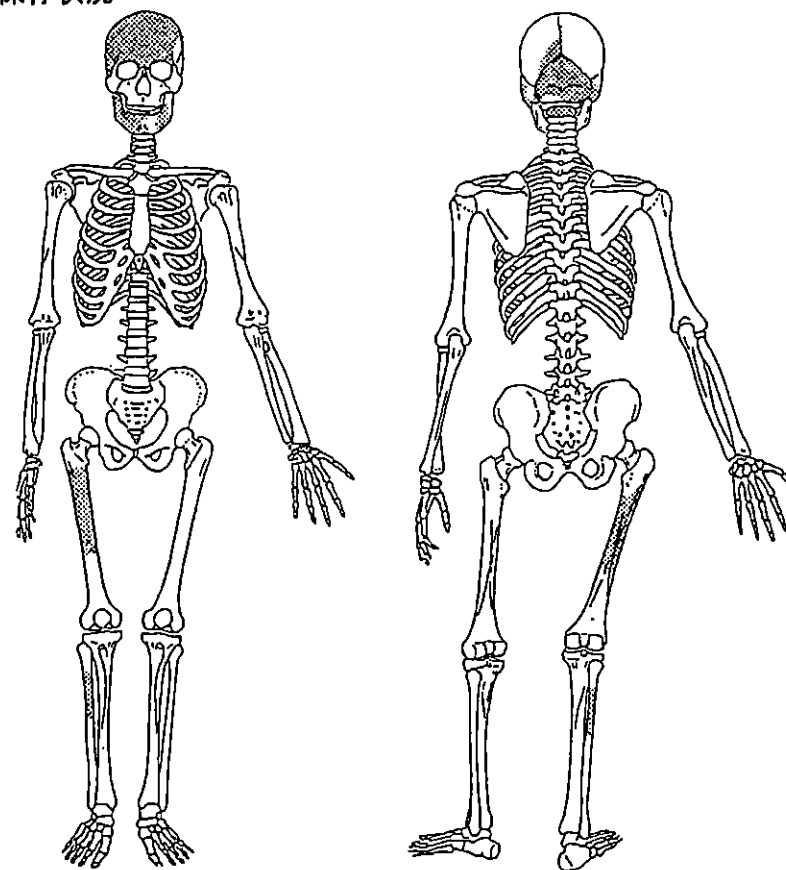
No.45

保存状況

整理番号 45
 保管場所 加曾利貝塚博物館
 保管所番号 43年度発掘2号人骨
 報告書番号 第2号人骨

発掘調査年月 1968,8~9
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第4調査区 Iトレンチ、7グリッド
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 加曾利E I
 文献 滝口宏 編(1977)「加曾利貝塚 IV」中央公論美術出版

人骨調査年月 2000,8/20
 人骨調査者 坂上・中島
 年齢 20~50
 性別 女性
 特記事項



歯式	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8
	X	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	X

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

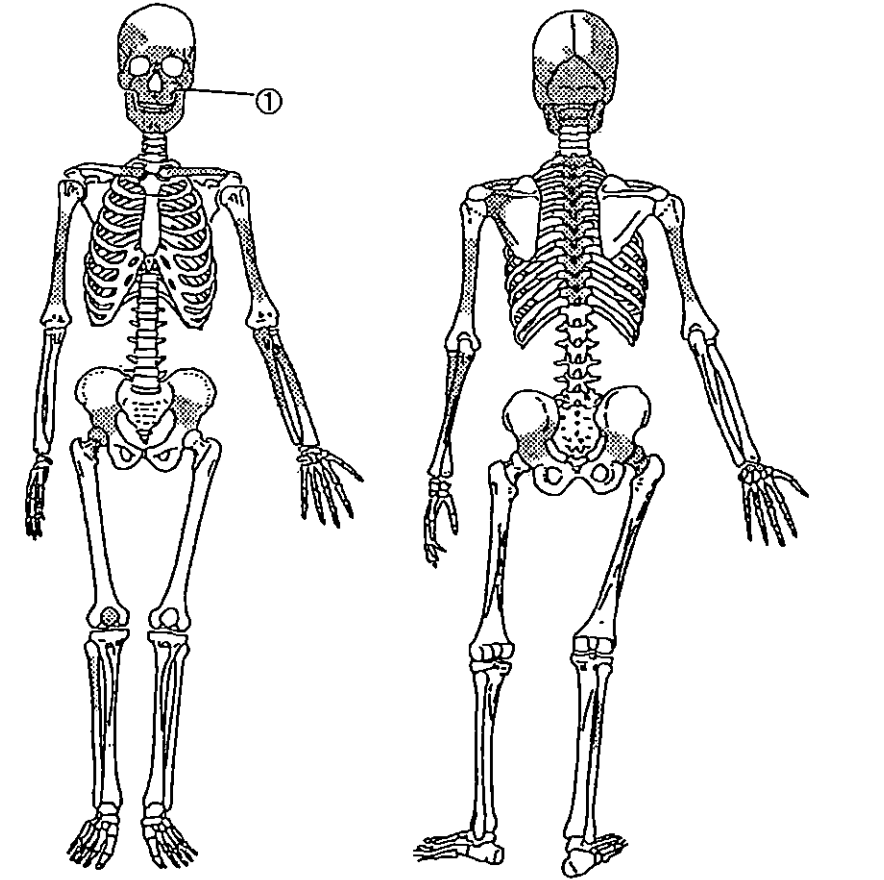
加曾利貝塚出土人骨

No.46

保存状況

整理番号 46
 保管場所 加曾利貝塚博物館
 保管所番号 43年度発掘3号人骨
 報告書番号 第3号人骨

 発掘調査年月 1968,8~9
 発掘調査地区 加曾利北貝塚第4調査区 I トレンチ、6グリッド拡張区
 発掘調査者 加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
 年代情報 加曾利E I
 文献 滝口宏 編(1977)「加曾利貝塚 IV」中央公論美術出版



歯式	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	⑤	6	7	8
	8	7	6	5	4	3	2	1		1	②	3	4	5	6	7	8

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

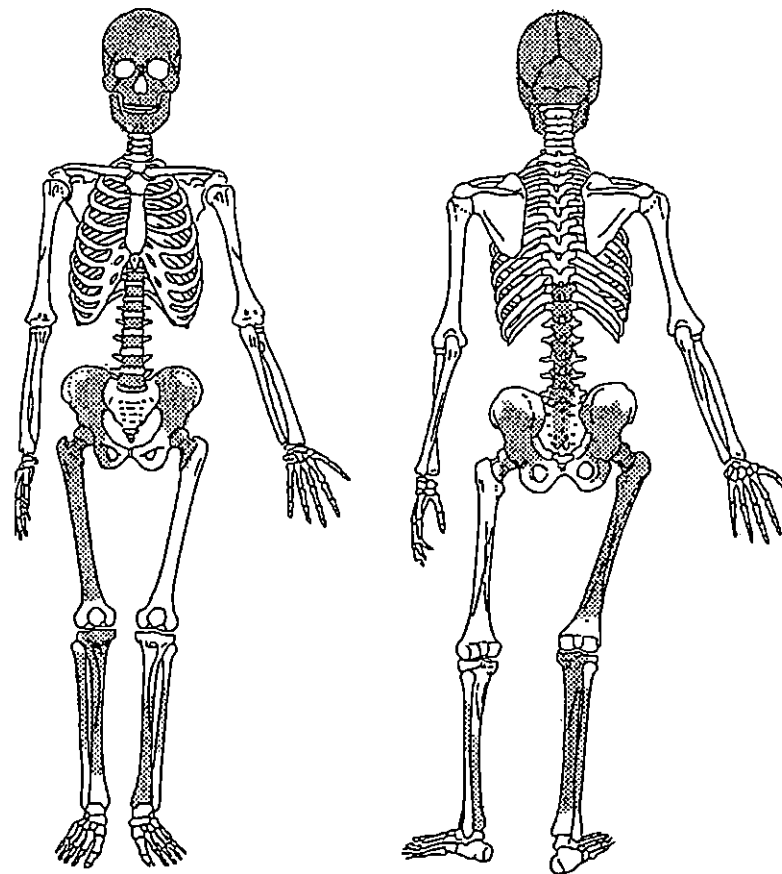
人骨調査年月 2000,9/20
 人骨調査者 坂上
 年齢 20~50
 性別 男性
 特記事項 ①は顎関節症あり

加曾利貝塚出土人骨

No.47

保存状況

整理番号	47
保管場所	加曾利貝塚博物館
保管所番号	47年度JD-16人骨埋葬ピット第1号人骨
報告書番号	第1号人骨
発掘調査年月	1972.8~12
発掘調査地区	加曾利南貝塚南側平坦部P-12土墳墓
発掘調査者	加曾利貝塚調査団(団長 滝口宏)
年代情報	加曾利EⅡ
文献	後藤和民・庄司克(1981)「昭和47年度加曾利南貝塚南側平坦部第4次遺跡限界確認調査概報」貝塚博物館紀要7号、p1
人骨調査年月	2000.9/26
人骨調査者	坂上
年齢	20~50
性別	男性
特記事項	発掘時の図にある右前腕骨は行方不明である。



歯式 $\frac{8 \ 7 \ 6 \ / \ 4 \ 3 \ / \ 1 \ | \ 1 \ / \ / \ 4 \ 5 \ 6 \ 7 \ /}{⑧ \ / \ / \ / \ 4 \ / \ / \ 1 \ | \ 1 \ / \ / \ 4 \ / \ 6 \ 7 \ 8}$

d:乳歯、O:歯槽開放、/:破損欠損、×:歯槽閉鎖(抜歯、未萌出、欠如を含む)

貝塚博物館研究資料 第6集

加曽利貝塚人骨の総合調査

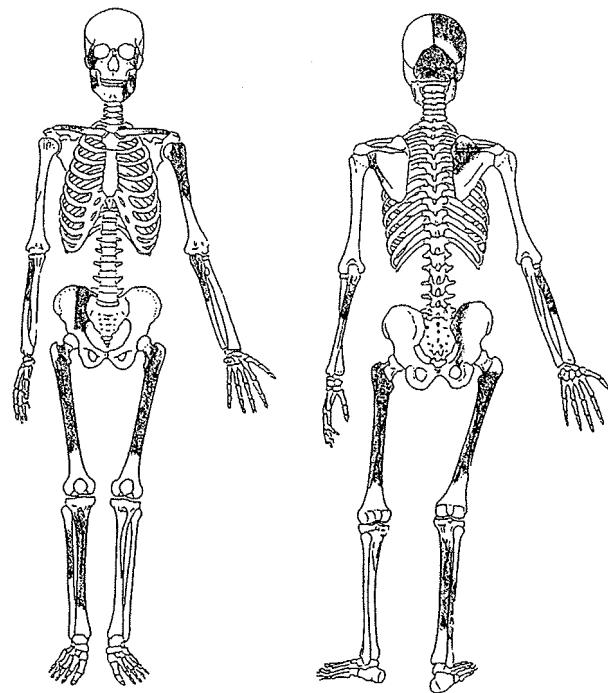
2002年 3 月 31 日

著・編集 木 村 賢
発 行 千葉市立加曽利貝塚博物館
千葉市若菜区桜木町163
TEL 043-231-0129
FAX 043-231-4986
印刷所 株式会社 正文社

「貝塚博物館研究資料 第6集 加曾利貝塚人骨の総合調査」訂正表

以下の誤りがありましたので、おわびして訂正いたします。 2003年3月 著者一同

ページ	整理番号	誤記	訂正
14	No.1	人骨図に右腓骨がある	「右腓骨」とされた骨は左腓骨の骨幹近位部である
21	No.8	人骨図に右膝蓋骨がある	「右膝蓋骨」は左膝蓋骨である
21	No.8	人骨図の左上腕骨背面が空白である	「左上腕骨」はほぼ完形で存在する
23	No.10	人骨図が「No.9」のものと同じである	正しい「人骨図」は下図の通り



27	No.14	「第8号人骨」と判断している	「第3号人骨」の可能性があり、「第3号又は第8号人骨」とする
45	No.32	保管所番号が「131064」となっている	正しい保管所番号は「131066」である
46	No.33	人骨図の左橈骨と尺骨前面が空白である	「左橈骨と尺骨」はほぼ完形で存在する
47	No.34	人骨図の左膝蓋骨が空白である	「膝蓋骨」は左右とも存在する